

No	出土位置	縦横 (cm) 長径×短径×深さ	平面形	覆土	備考 (遺構関係・出土遺物・他)
43	A<7	22×22×30	円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3)	
44	A<7	24×20×9	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・パミス含む。	
45	B<9	56×48×16	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子多く含む。	古墳土師器丸胴覆片。
46	A<9	50×36×30	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR3/2) パミス多く含む。 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・パミス含む。 3. 黄褐色土層 (10YR5/6) ローム主体。	武蔵覆片。
47	A<9	40× (20) ×31. 5	楕円形	1. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・パミス細粒含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子砂多く含む。	
48	A<9	50×34×47. 5	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・パミス細粒含む。 2. 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体。	
49	A<9	40× (26) ×20. 5	楕円形	1. 暗褐色土層 (10YR3/4)	
50	A<6	28×20×25	円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック含む。	M4に切られる。
51	A<7	44×36×43. 5	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 2. 黄褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック含む。	M4を切る。 M4に切られる。
52	A<7	26×24×33. 5	円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームブロック含む。	
53	A<8	22×18×26. 5	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。	
54	A<8	20×20×17	円形	#	M4との新旧関係不明。
55	A<9	24×18×54. 5	楕円形	P29と同じ。	
56	C<1	56×44×27	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 0.5cm大パミス含む。	M2を切る。弥生中層産・覆片
57	A<お7	24×16×11	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3)	M5を切る。
58	A<お7	20×20×21	円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3)	M5を切る。
59	A<お7	24×18×30	楕円形	1. 褐色土層 (10YR4/4) ロームブロック含む。	M5を切る。
60	A<お9	36×32×28	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・炭化物粒子含む。	
61	C<1	44×40×23. 5	円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・炭化物粒子含む 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームブロック含む。	
62	A<お6	44×30×20	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム多く含む。	
63	A<お6	30×30×30	円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム・パミス5mm大含む。	
64	A<お6	36×28×27	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・パミス1cm大含む。	
65	A<お6	30×28×23	円形	1. 黒褐色土層 (10YR3/2) ロームブロック含む。 2. 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。	
66	A<お6	28×22×35	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック・パミス・炭化物粒子含む。	
67	A<お7	44×36×41	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・パミス含む。 2. 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。	
68	A<お7	24×24×26	円形	1. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子含む。 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック含む。	
69	A<お7	46×36×67	楕円形	1. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子多く・パミス含む。 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子含む。	武蔵覆片・土師器杯片
70	A<お7	30×28×15	円形	1. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子・パミス含む。	
71	A<お7	24×20×46	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 炭化物含む。	
72	B<お8	28×26×19	円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。	
73	B<お8	30×22×26	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子含む。 2. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子多く含む。	
74	B<お8	28×22×27	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。	
75	B<お8	26×24×23. 5	円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・パミス含む	
76	B<お8	46×34×39	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色砂多く含む。	
77	B<お8	36×32×31	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子多く含む。	
78	B<お8	32×32×21	円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 小石含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子多く含む。	土師器覆片。
79	B<お8	32×24×24	楕円形	1. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・小石含む。 2. 褐色土層 (10YR4/4) 黄褐色砂多く含む。	
80	B<お8	28×22×17	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子多く含む。 2. 褐色土層 (10YR4/4) 黄褐色砂多く含む。	
81	B<お8	34×30×19	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 2. 暗褐色土層 (10YR3/3)	
82	B<お9	48×34×37	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色砂多く含む。	土師器片
83	B<お9	34×34×22	円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子多く含む。	
84	B<お9	34×26×24	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子多く含む。	
85	A<お8	26×16×21	楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3)	
86	A<お8	42×40×39	円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 小石多く含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子多く含む。	

第3表 西一本柳遺跡V出土土器観察表

H1号住居址

押出番号	器種	注量	器形の特徴	成形・調査	備考
8-1	土師器 甕	— (6.0) 7.0	丸胴壺底部。	外面 胴部・底部ヘラケズリ。 内面 ナズ。	完全実装。1/2残存。 色調 5YR3/4 (黄赤褐色) カマド出土。
8-2	土師器 甕	(2.2.7) (9.9) 7.0	丸胴壺。台付か。	外面 胴上部横位のヘラケズリ・胴下半部斜位のヘラケズリ→口縁部横ナズ。 内面 ナズ。	回転実装。1/2残存。 色調 2.5YR5/4 (にぶい黄褐色)

H6号住居址

押出番号	器種	注量	器形の特徴	成形・調査	備考
9-1	土師器 小壺	(16.0) (16.0) (6.8)	接点ないが同一製体。	外面 口縁部横ナズ。胴部・底部ヘラケズリ 内面 ナズ。 胴部・底部ヘラケズリナズ。	回転実装。 色調 7.5YR3/4 (にぶい褐色)
9-2	土師器 壺	(23.0) (9.9) —	丸胴壺。 口縁部大きく外反し。「く」の半形壺。	外面 口縁部横ナズ。胴部ヘラケズリ。 内面 口縁部横ナズ。胴部ナズ。	回転実装。1/4残存。 色調 5YR5/4 (にぶい黄褐色)

H4号住居址

押出番号	器種	注量	器形の特徴	成形・調査	備考
10-1	土師器 杯	(12.4) (4.2) (9.6)	丸底。深窓器杯身模倣杯。	外面 口縁部横ナズ。底部手持ちヘラケズリ。 内面 横ナズ。	回転実装。1/4残存。 色調 2.5YR6/8 (褐色)
10-2	土師器 杯	15.4 5.0 12.0	丸底。深窓器杯身模倣杯。	外面 口縁部横ナズ。底部手持ちヘラケズリ。 内面 横ナズ。	完全実装。ほぼ完存。 色調 10YR5/4 (にぶい黄褐色)
10-3	土師器 杯	(15.4) (2.3) (13.0)	丸底。深窓器杯身模倣杯。	外面 口縁部横ナズ。底部手持ちヘラケズリ。 内面 横ナズ。	回転実装。産物1/2残存。 色調 2.5YR6/8 (褐色)
10-4	土師器 筒	14.6 4.5 12.0	丸底。深窓器杯身模倣杯。 内面黒色処理。	外面 口縁部横ナズ。底部手持ちヘラケズリ。 内面 口縁部横ナズ。底部大まかミガキ。 黒色処理。	完全実装。ほぼ完存。 色調 1.5YR5/3 (にぶい褐色) 内面 7.5YR1.7/1 (黒色)
10-5	土師器 杯	12.0 4.7 13.0	丸底。深窓器杯身模倣杯。	外面 口縁部横ナズ。底部手持ちヘラケズリ 一だまかミガキ。 内面 横ナズ。	完全実装。完形。 色調 7.5YR4/4 (褐色) 内外面少し炭付着。
10-6	土師器 杯	12.4 4.2 13.0	丸底。深窓器杯身模倣杯。薄手。	外面 口縁部横ナズ。底部手持ちヘラケズリ。 内面 横ナズ。	完全実装。完形。 色調 7.5YR6/4 (にぶい褐色) 粘土層着。焼成褐色仕上げ。
10-7	土師器 鉢	— (4.4) 6.0	厚手。	外面 胴部・底部ヘラケズリ。 内面 ナズ。→2箇ミガキ。	回転実装。1/2残存。 色調 5YR6/8 (褐色)
10-8	土師器 甕	— 25.0 10.8	胴部円筒形。	外面 胴部ヘケ。 内面 胴部縦方向のヘケ→上部縦方向ヘケナズ。	完全実装。口縁部欠損。 色調 5YR5/6 (褐色)
10-9	土師器 甕	(20.4) 12.5 —	丸胴壺。	外面 口縁部横ナズ。胴部ヘラケズリ→横かかミガキ。 内面 口縁部横ナズ。胴部ナズ。ミガキ所々あり。	回転実装。1/8残存。 色調 1.5YR7/4 (にぶい褐色)
10-10	土師器 壺	— (2.5) 7.8	丸胴壺底部か。	外面 ミガキ。底部ミガキ層着。 内面 ナズ。→2箇ナズ?	完全実装。底部のみ残存。 色調 5YR5/6 (褐色)
11-11	土師器 鉢	(12.4) (11.6) —		外面 口縁部横ナズ。胴部縦方向ヘラケズリ。 内面 横方向ヘケ→口縁部横ナズ。	回転実装。1/3残存。 色調 10YR7/6 (黄褐色)
11-12	土師器 小壺	14.7 10.8 —	丸底。底にカヤの圧痕あり。	外面 胴部・底部ヘラケズリ。→口縁部横ナズ。 内面 ナズ→口縁部横ナズ。	完全実装。 色調 7.5YR6/4 (にぶい褐色) 粘土・砂粒多く含む。

10-13	土師器 長胴壺	(17. 0) (15. 2) —	口縁部短く外反。	外面 口縁部ナゲ→胴部縦方向へのヘラケズリ。 内面 口縁部ナゲ→胴部ナゲ。	回転実測。1/7残存。 色調 5YR 6/4 (にぶい黄褐色) 粘土 7mm次の小石含む。
10-14	土師器 長胴壺	(21. 0) (22. 1) —	口縁部大きく外反。	外面→胴部ヘラケズリ。→口縁部ナゲ 内面→胴部ナゲ。→口縁部ナゲ。	回転実測。1/2残存。底部なし。 色調 10YR 7/4 (にぶい黄褐色) 粘土 磨滅。
10-15	土師器 長胴壺	18. 2 34. 4 5. 0	口縁部短く外反。	外面→胴部縦方向・底部ヘラケズリ。→口縁部ナゲ。 内面→口縁部ヨコナゲ、胴部ナゲ。	完全実測。完形。 色調 10YR 5/6 (黄褐色)

H7号住居址

探 査 番 号	器 種	出 量	器 形 の 特 徴	成 形 ・ 調 整	備 考
13-1	土師器 平	(13. 5) (3. 8) (11. 8)	丸底。底面扁平状。口縁部短く外反。 口縁部は扇状のロゴ痕あり。	外面 口縁部ナゲ。底面平持ちヘラケズリ。底面に意匠圧痕1本。 内面 平ナゲ。	完全実測。完形。 色調 5YR 5/8 (明赤褐色)
13-2	土師器 杯	(15. 4) 4. 0 (9. 4)	丸底。口縁に比して底径が小さく浅い。底面に口縁は外反をもつて大きく外反する。	外面 口縁部丁寧なミガキ。底面平持ちヘラケズリ。 内面 ミガキ。	回転実測。1/3残存。 色調 5YR 6/8 (褐色)
13-3	土師器 平	(15. 1) 4. 6 (10. 4)	丸底。口縁に比して底径が小さく浅い。底面に口縁は外反をもつて大きく外反する。厚手。	外面 口縁部丁寧なミガキ。底面平持ちヘラケズリ。 内面 ミガキ。	回転実測。1/2残存。 (褐色)
12-4	土師器 鉢	17. 3 32. 0 11. 6	丸底。全体にゆがむ。厚手。	外面 口縁部ヨコナゲ。→ミガキ。胴部ヘラケズリ→ミガキ。 内面→ミガキ。	完全実測。2/3残存。 色調 5YR 6/8 (褐色)
13-5	土師器 鉢	19. 0 11. 4 7. 0	底面丸底。 下部内外面に炭化物付着。	外面 口縁部ヨコナゲ。→胴部ヘラケズリ。→口縁部わずかにミガキ。 内面→口縁部ヨコナゲ。→ミガキ。	完全実測。完形。 色調 2.5YR 5/6 (明赤褐色)
13-6	土師器 鉢	(14. 8) (18. 0) —	口縁部短く外反。	外面 口縁部ヨコナゲ。胴部ミガキ。 内面 口縁部ヨコナゲ。胴部ミガキ。	回転実測。1/4残存。 色調 5YR 3/3 (暗赤褐色)
13-7	土師器 平盤	(3. 5) 2. 6 —		内外面 押し痕	部分実測。1/3残存。 色調 2. 5YR 3/2 (暗赤褐色)
13-8	土師器 鉢	— (4. 4) 6. 0	丸底。底面中央径3cm弱む。	外面→ヘラケズリ→ミガキ。 内面→ミガキ。黒色地肌。	回転実測。底面残存。 色調 7. 5YR 6/6 (褐色)
13-9	土師器 鉢	— (5. 4) (7. 2)		外面→胴部ヘラケズリ。底面ミガキ。 内面→ミガキ。	回転実測。1/4残存。 色調 5YR 5/8 (明赤褐色)
13-10	土師器 長胴壺	15. 9 25. 6 . 6. 9	中皿品。口縁部短く外反。	外面 口縁部ヨコナゲ。胴部ヘラケズリ→ミガキ 底面ヘラケズリ。 内面→口縁部ヨコナゲ。胴部ナゲ。	完全実測。完形。 色調 10YR 5/6 (黄褐色)
12-11	土師器 長胴壺	18. 9 32. 0 5. 5	口縁部短く外反。	外面→口縁部ヨコナゲ。胴部ヘラケズリ。底面本丸底。 内面→口縁部ヨコナゲ。胴部ナゲ。	完全実測。 色調 2.5YR 5/6 (明赤褐色)

H3号住居址

探 査 番 号	器 種	出 量	器 形 の 特 徴	成 形 ・ 調 整	備 考
15-1	高 杯	(9. 4) 5. 6 5. 5	小皿品。	外面 ミガキ。赤色地肌。 内面 杯部ミガキ。赤色地肌。胴部ナゲ→わずかにミガキ。	回転実測。胴部完存。 色調 5YR 5/6 (明赤褐色)
16-2	高 杯	— (4. 1) —		外面 ミガキ。赤色地肌。 内面 杯部ミガキ。赤色地肌。胴部ナゲ	完全実測。胴部完存。 色調 10R 4/6 (赤色)
15-3	鉢	(17. 6) 5. 6 (7. 0)		外面 ミガキ。赤色地肌。底面ナゲ。 内面 ミガキ。赤色地肌。	回転実測。1/3残存。色調 10R 4/8 (赤色)

標 榜 番 号	標 榜	法 量	器 形 の 特 徴	成 形 ・ 調 整	備 考
15-4	鉢	— (1. 8) (6. 4)		外面 鮮赤黄色染部、底部ナブ。 内面 赤色染部。	回転実測、1/3残存。 色調 10 Y R 6/4 (にぶい黄褐色)
15-5	甌	15. 0 9. 8 6. 1	焼成の穿孔、早口甌。	外面 口縁部横ナブ→緩なミガキ、底部ナブ。 →ミガキ。 内面 ミガキ。	完全実測、3/4残存。 色調 10 Y R 5/8 (明黄褐色)
15-6	甌	(16. 2) (8. 1) —	口縁部横溝。	外面 口縁部ハケ→横ナブ、口唇部L.R.織文。 胴部L.R.織文→平行沈線。 内面 ミガキ。	回転実測、1/3残存。 色調 7. 5 Y R 7/6 (褐色)
15-7	甌	— (6. 6)	胴部のみ残存。	外面 胴部平行沈線3本→波状文、胴部起線文。 (胴部波状文→沈線互面)、ハケ→ミガキ。 内面 胴部横ナブ、胴部ハケ。	回転実測、1/2残存。 色調 10 Y R 7/3 (にぶい黄褐色)
次書					
15-9	甌	— (12. 5)	底部で輪状に盛り、器台として二次利用した可能性あり。	外面 胴部L.R.織文→平行沈線4本、胴上部ハケ→ミガキ。 内面 胴部ナブ、胴部ハケ。	完全実測、胴部完存。 色調 10 Y R 8/4 (黄褐色)
15-10	甌	— (1. 3) (8. 0)	胴部の底底部。	外面 ミガキ、底部に輪部わづかに付着。 内面 ハケ。	回転実測、1/3残存。 色調 10 Y R 7/3 (にぶい黄褐色)
15-11	甌	— (1. 6) (7. 1)	無形器。	外面 ミガキ。 内面 胴部。	完全実測、底面残存。 色調 10 Y R 8/4 (黄褐色)
15-12	甌	— (3. 0) (7. 4)	底部に縁脚あり、3mm大の砂粒付着。	外面 ミガキ、底面縁脚。 内面 ナブ。	回転実測、2/3残存。 色調 7. 5 Y R 5/4 (黄褐色)
15-13	甌	— (4. 1) (9. 0)	胴下部が割れる器形。	外面 ミガキ。 内面 ハケ→底部ナブ。	回転実測、1/2残存。 色調 10 Y R 7/3 (にぶい黄褐色)
15-14	甌	— (11. 2) 8. 8	胴下半のみ。	外面 ハケ→ミガキ。 内面 ハケ→底部ナブ。	完全実測、底面完存。 色調 5 Y R 6/6 (褐色)
15-15	甌	(14. 4) (3. 2) (9. 6)	胴下半のみ、胴部最大径が低い位置にある。	外面 ハケ→ミガキ。 内面 胴部著しい。	完全実測、胴下部底面残存。 色調 5 Y R 4/3 (黄褐色)
15-16	甌	— (18. 5) 9. 0	胴中下半。	外面 ハケ→ミガキ。 内面 ハケ。胴部著しい。	完全実測、ほぼ完存。 色調 7. 5 Y R 6/6 (褐色)
17-17	甌	(13. 8) (7. 7) —	小型品、受け口状口縁。	外面 口唇部L.R.織文、口縁L.R.織文、胴部使方向の磨き波状文、腹の縁で区画志中帯に内面の起付文。 内面 ミガキ。	回転実測、1/3残存。 色調 5 Y R 6/8 (褐色)
17-18	甌	(7. 0) 2. 0 6. 0	大型品、受け口状口縁。	外面 口唇部・口縁部L.R.織文、胴部磨き波状文、胴部の起付文、垂単位は4本、下部ハケ→ミガキ。 内面 ハケ→緩らかなミガキ。	回転実測、1/3残存。 色調 10 Y R 7/4 (にぶい黄褐色)
17-19	台付甌	— (8. 3) (9. 2)	胴部のみ。	外面 甌部はハケ→ナブ、胴部横ナブ。 内面 胴部ミガキ、胴部ハケ横ナブ。	回転実測、1/4残存。 色調 5 Y R 5/8 (明黄褐色)
17-20	甌	— (1. 6) (6. 8)	底部のみ。	外面 ミガキ。 内面 ミガキ。	回転実測、1/2残存。 色調 7. 5 Y R 7/6 (褐色)
17-21	甌	— (2. 6) (7. 2)	底部のみ。	外面 ミガキ。 内面 ミガキ。	回転実測、1/2残存。 色調 7. 5 Y R 3/2 (黒褐色)
17-22	甌	— (2. 6) (7. 2)	底部のみ。	外面 ミガキ。 内面 ミガキ。	完全実測、底部完存。 色調 7. 5 Y R 3/2 (黒褐色)

H5号住居址

詳細 番号	種類	数量	形状の特徴	成形・製法	備考
18-1	高坏?	(12.8) (2.8) —	小型扁平部のみ。口縁に三角突起付く。 口縁に小穿孔あり。	外面 ミガキ、赤色胎形。 内面 ミガキ、赤色胎形。	胎形実測。1/4残存。 色調 2.5YR5/6 (赤赤褐色)
18-2	鉢	(23.0) (7.6) —	口縁部内湾、外面に突起付く。2箇の 小孔あり。	外面 ミガキ、赤色胎形。 内面 ミガキ、赤色胎形。	胎形実測。1/2残存。 色調 10R4/5 (赤色)
18-3	高坏?	(17.0) (9.0) —	肩部の高さが低い。杯部のみ。	外面 ミガキ、赤色胎形。 内面 ミガキ、赤色胎形。	胎形実測。1/4残存。 色調 10R4/8 (赤色)
18-4	甕	(4.8) (4.2) —	円筒状の口縁。	外面 ハケミガキ。 内面 横ナダ。	胎形実測。1/4残存。 色調 5YR6/8 (褐色)
18-5	甕	— (16.7) 4.6	小型の甕。	外面 腹部縮輪を腰状文(等間隔止め)。1本の 紋状文。胴部ミガキ。 内面 ハケミガキ。	完全実測。 色調 10YR8/3 (黄褐色)
18-6	甕	(10.3) 20.7 (6.0)	小型の甕。外反する口縁。	外面 口縁部横ナダ。胴部L.R.縄文→平行紋2 本。胴上端ミガキ、下部近部ヘラナダ。 底部 回転糸切り。	完全実測。ほぼ完全。 色調 10YR8/4 (黄褐色)
18-7	甕	11.1 (11.1) —	中型品。口縁部残存。 口縁部全体を外反。	外面 ハケミガキ口縁部横ナダ。口唇部L.R.縄文。 胴部下唇L.R.縄文→胴部平行紋3本。胴部 ハケミガキミガキ。 内面 口縁部横ナダ→ミガキ。胴部ナダ。	完全実測。口縁部残存。 色調 10YR8/3 (黄褐色)
18-8	甕	14.4 0.9 (9.4)	大型品。胴上部が細長い。	外面 ハケミガキ口縁部横ナダ。口唇部L.R.縄文。胴 部L.R.縄文→平行紋2本・腰状文1本→ 斜いミガキ。 内面 ロ→胴部ハケミガキ。胴部ナダ。	完全実測。口縁部残存。 色調 10R6/3 (濃い褐色)
18-9	甕	(15.0) (2.2)	口縁のみ。	外面 横ナダ。口唇部L.R.縄文。口縁部ミガキ。 内面 横ナダ。ミガキ。	胎形実測。1/2残存。 色調 7.5YR7/8 (褐色)
18-10	甕	— (20.8) —	口縁部・胴下部欠損。口縁部と胴部は 器蓋上の模倣。	外面 口縁部ミガキ。胴部花縄1本。胴部ハケミ ガキ。 内面 口縁部ミガキ。胴部ヘラナダ。	胎形実測。口縁・胴上部残存。 色調 7.5YR4/4 (濃い褐色)
18-11	甕	(8.5) (10.7)	20-10の胴下部のみ。	外面 ハケミガキ。 内面 ナダ。	完全実測。胴下部・底部残存。 色調 7.5YR6/6 (濃い褐色)
18-12	甕	(18.4) (22.2) 7.4	胴中で器蓋嵌合。	外面 腹部縮輪状文→口縁部胴上半部縮輪 状文(9本単位)。胴下部・底部ミガキ。 内面 ミガキ。	胎形実測。底部完存外1/4残 存。 色調 10YR6/4 (濃い黄褐色)
18-13	台付甕	— (11.1) 6.6	小型の台付甕。	外面 腹部縮輪状文。胴部紋状文。脚部ナダ。 内面 胴部ミガキ。脚部ナダ。	完全実測。ほぼ完全。 色調 7.5YR7/8 (褐色)
18-14	甕	— (2.0) (3.6)	小型瘦形甕。	外面 ミガキ。 内面 ミガキ。	胎形実測。1/2残存。 色調 7.5YR7/4 (濃い褐色)
18-15	甕	(17.5) 20.4 7.0	中型品。受け口状口縁。	外面 口唇部L.R.縄文。ロ→胴部縮輪状文。胴 上部横方方向の羽状条痕状胴下部ハケミガ キ。 内面 ミガキ。	完全実測。ほぼ完全。 色調 2.5YR3/4 (赤赤褐色)
18-16	甕	— (27.8) 11.4	口縁部欠損。大型品。窪み胎形。	外面 ハケミガキ胴上半部ミガキ赤色胎形。下部・底部 胴中位ハケミガキ上ナダ。底部ミガキ。	胎形実測。底部完存外1/4残 存。 色調 7.5YR4/6 (赤色)
18-17	甕	— (25.4) (11.2)	大型品。	外面 ハケミガキ。 内面 ハケミガキ。	胎形実測。1/4残存。 色調 7.5YR7/4 (濃い褐色)

H8号住居址

20-1	甕	— (25.0) —	中型品。	外面 腹部L.R.縄文→平行紋。胴上半部ミガキ。 胴部縮輪状文。 内面 口縁部ミガキ。内面ナダ割着らしい。	完全実測。ロ→胴上半部残存。 色調 10YR6/4 (濃い黄褐色)
------	---	------------------	------	---	---

M1号溝状遺構

押出番号	部番	測量	器形の特徴	成形・調査	備考
42-1	杯 (古墳)	(14. 4) (4. 0) (11. 0)	須恵器製横須杯。	外面 口縁部横ナゲ、底部平坦ヘラケズリ。 内面 ミガキ。	回転実測。1/3残存。 色調 10YR7/4 (にぶい黄褐色)
42-4	高杯 (古墳)	(12. 6) 11. 0 (9. 0)	須恵器製高杯。	外面 杯唇口縁部横ナゲ、下部ヘラケズリーナゲ、脚部底ヘラケズリーナゲ。器唇横ナゲ 内面 杯唇ミガキ黒色処理、脚部ナゲ。	回転実測。1/4残存。 色調 7.5YR8/4 (灰黄褐色)
42-2	杯 (古墳)	(12. 0) (5. 0) -	内面に上方に横をもって反く外形。	外面 口縁部横ナゲ。器唇文様のミガキ。 内面 口縁部横ナゲ。器唇文様のミガキ。	回転実測。1/3残存。 色調 5YR6/8 (褐色)
42-3	杯 (古墳)	(11. 2) (6. 3) -	半球形で口縁部が内湾する。	外面 口縁部横ナゲ。底部ナゲ。 内面 口縁部横ナゲ。ナゲ。	回転実測。1/3残存。 色調 2.5YR4/6 (赤褐色)
42-5	高杯 (古墳)	(15. 0) (4. 4) -	高杯杯唇。口縁直線的に外形。	外面 口縁部横ナゲ。器唇文様のミガキ。 内面 口縁部横ナゲ器唇文様のミガキ。	回転実測。1/2残存。 色調 5YR3/5 (暗赤褐色)
42-6	高杯 (古墳)	- 8. 4 (13. 0)	高杯杯唇。円筒形器唇外形。	外面 器唇横ナゲ。器唇ナゲ一様文様のミガキ。 内面 器唇横ナゲ。器唇ナゲ。輪模痕直線。	完全実測。2/3残存。 色調 5YR3/6 (暗赤褐色)
42-7	小型丸蓋 (古墳)	- (8. 0) -	器唇直線。	外面 ヘラケズリーナゲ。 内面 ヘケ。	回転実測。1/3残存。 色調 2.5YR4/6 (赤褐色)
42-8	蓋 (古墳)	(11. 6) (6. 5) -	直線口縁の蓋。	外面 横ナゲ。 内面 横ナゲ。	回転実測。1/4残存。 色調 10YR7/4 (にぶい黄褐色)
42-9	壺 (古墳)	(8. 2) 1. 9 (6. 6)	ハケ型。	外面 ハケー口縁部横ナゲ。 内面 ハケー口縁部横ナゲ。	回転実測。1/4残存。 色調 5YR6/4 (にぶい褐色)
42-10	壺 (古墳)	(22. 0) (7. 6) -	くの字形開口縁型。ナゲ調整型。	外面 口縁部横ナゲ。器唇ナゲ。 内面 口縁部横ナゲ。器唇ナゲ。	回転実測。1/4残存。 色調 10YR6/4 (にぶい黄褐色)
42-11	壺 (古墳)	- (5. 2) (6. 4)	10の底部分か。	外面 ハケナゲー器ミガキ? 内面 ハケナゲ。	回転実測。1/4残存。 色調 10YR6/4 (にぶい黄褐色)
42-12	壺 (古墳)	(4. 0) (6. 5) -	底型。	外面 ナゲ? 内面 ナゲ。回転実測。1/2残存。 色調 7. 5Y7/4 (にぶい褐色)	回転実測。1/2残存。 色調 7. 5YR4/3 (褐色)
42-13	壺 (古墳)	- (3. 8) (11. 6)	底型。	外面 ナゲーミガキ。 内面 ナゲ。	回転実測。1/2残存。 色調 10YR7/3 (にぶい黄褐色)
42-14	壺 (古墳)	- (3. 8) (11. 6)	底型。	外面 ミガキ。 内面 ミガキ。	回転実測。1/2残存。 色調 7. 5YR6/4 (褐色)
42-15	瓶 (古墳)	- (2. 3) (5. 8)	底部に1孔あく。	外面 ミガキ。 内面 ミガキ。	回転実測。1/2残存。 色調 10YR4/2 (灰黄褐色)
42-16	高杯 (弥生)	(22. 8) (3. 3) (5. 8)	口縁に4方所貫起付く。	外面 ミガキ・赤色彫形。 内面 ミガキ・赤色彫形。	回転実測。1/2残存。 色調 7. 5YR4/6 (赤色)
42-17	壺 (弥生)	21. 6) (15. 0) -		外面 頸部横ナゲ・口縁部・胴上部横ナゲ (10本)。 内面 ミガキ。	回転実測。1/2残存。 色調 10YR4/2 (灰黄褐色)
42-18	壺 (弥生)	- (7. 0) -	頸部のみ残存。	外面 頸部1R縦文。平行沈線3本。口縁・胴部 ミガキ。 内面 胴部ヘケ。	

M7号溝状遺構

碑 号	部 種	出 量	器 形 の 特 徴	成 形 ・ 調 整	備 考
43-1	釜 (弥生)	34.6 (15.0) —	受け口の口縁。	外面 頸部縮み崖状文、口縁部赤色塗彩ミガキ。 内面 赤色塗彩ミガキ。	田転実測、1/2残存。 色調 7.5YR3/6 (灰青褐色)
43-2	釜 (弥生)	(12.4) (3.2) —	外反する口縁。	外面 口縁端部L&R織文、口縁部横ナデ+ミガキ。 内面 横ナデ+ミガキ。	田転実測、1/4残存。 色調 10YR7/3 (にぶい黄褐色)
43-3	釜 (弥生)	(14.8) (3.8) —	外反する口縁。	外面 口縁端部L&R織文、口縁部横ナデ+ミガキ。 内面 横ナデ+ミガキ。	田転実測、1/4残存。 色調 10YR7/3 (にぶい黄褐色)

M2号溝状遺構

碑 号	部 種	出 量	器 形 の 特 徴	成 形 ・ 調 整	備 考
44-1	高 杯 (弥生)	(16.0) (7.8) —	杯口縁部外反。	外面 ミガキ 赤色塗彩。 内面 ミガキ 赤色塗彩、脚部ナデ。	田転実測、1/3残存。 色調 10R4/6 (赤色)
44-2	杯 (弥生)	15.8 6.3 4.4	片口付く。口縁部2小孔あり。	外面 ミガキ 赤色塗彩、底部ミガキ。 内面 ミガキ 赤色塗彩。	完全実測、ほぼ完全。 色調 10R4/6 (赤色)
44-3	鉢 (弥生)	(21.0) 7.2	底部欠損。縦が斜め。	外面 ミガキ。 内面 ミガキ。	田転実測、1/4残存。 色調 10YR7/4 (にぶい黄褐色)
44-4	鉢 (弥生)	(20.0) (11.0) —	底部欠損。	外面 ミガキ、摩耗している。 内面 ミガキ。	田転実測、1/6残存。 色調 10YR7/4 (にぶい黄褐色)
44-5	台付甕 (弥生)	— (2.5) (5.2)	脚部のみ。細折り返す。	外面 ナデ。 内面 ナデ。	田転実測、1/2残存。 色調 7.5YR6/4 (にぶい褐色)
44-6	甕 (弥生)	20.1 25.1 6.7	直状文並列。横き筋まわりがある。磨損がひどい。	外面 縮み崖状文(10本)口縁から頸中位まで直状文(5本)上から下へ、胴下部・底部ミガキ。 内面 ミガキ。	完全実測、ほぼ完全。 色調 10R5/4 (にぶい黄褐色)
44-7	台付甕 (弥生)	(5.1) (9.0)	脚部のみ。2孔あり。	外面 ミガキ。 内面 ナデ。	完全実測、ほぼ完全。 色調 2.5YR6/6 (褐色)
44-8	甕 (弥生)	12.8 (9.2) —	口縁部のみ。	外面 ハケ+ナデ+口縁部横ナデ+口唇部・頸部L&R織文+片付口縁部(3本)。 内面 口縁部横ナデ+ナデ。	完全実測、口縁部残存。 色調 7.5YR7/6 (赤色)
44-9	甕 (弥生)	(21.0) 9.0	胴から底部部のみ。	外面 ミガキ、割棄する。 内面 ナデ、ハゲ目残る。	完全実測、口縁部残存。 色調 10YR6/4 (黄褐色)

M5号溝状遺構 (弥生時代)

47-1	杯	(15.0) 5.8 5.8	口縁部に焼成前2小孔あり。無彩。	外面 口縁部横ナデ+わずかにミガキ 漆黒無彩。 内面 ハケ+わずかにミガキ。	田転実測、杯部1/4残存。 色調 7.5YR6/4 (にぶい褐色)
47-2	杯	(17.2) 7.5 4.7	口縁端部内面片部に穴付き突起残る。濃い赤色塗彩。	外面 ミガキ 赤色塗彩、底部ミガキ。 内面 ミガキ 赤色塗彩。	田転実測、1/3残存。 色調 7.5R3/4 (暗赤色)
47-3	杯	(9.0) (4.1) —	口縁端部面取。	外面 ミガキ 赤色塗彩。 内面 ミガキ 赤色塗彩。	田転実測、1/6残存。 色調 7.5R3/4 (暗赤色)
47-4	杯	— 1.0 5.8	底部のみ。	外面 ミガキ 赤色塗彩、底部ハケ+ミガキ。 内面 ミガキ 赤色塗彩。	完全実測、底部完全。 色調 2.5YR4/6 (暗褐色)
47-5	高杯	— (6.0) (10.0)	脚部。濃い赤色塗彩わずかに残る。	外面 ミガキ 赤色塗彩。 内面 ミガキ 赤色塗彩、脚部ナデ。	完全実測、1/2残存。 色調 7.5YR7/6 (褐色)
47-6	高杯	(3.1) (3.3) —	つまみ部残る。	外面 ナデ。 内面 ハケ+粗いミガキ。	完全実測、つまみ完全。 色調 10YR3/4 (暗赤褐色)
47-7	高杯	5.7 (3.6)	胴部の杯下部を削り口縁としている。2穴あり。濃い赤色塗彩。	外面 ミガキ 赤色塗彩。 内面 杯縁ミガキ 赤色塗彩、脚部ナデ。	完全実測、ほぼ完全。 色調 7.5YR3/4 (暗赤褐色)
47-8	脚鉢	(9.8) (4.8) —	頸部に焼成前2小孔あり。濃い赤色塗彩。	外面 ミガキ 赤色塗彩。 内面 ミガキ 赤色塗彩。	田転実測、1/3残存。 色調 2.5YR5/4 (にぶい暗褐色)
47-9	脚 鉢	(15.8) 14.7 8.6	口縁部受け口。肩に横あり。赤色塗彩の磨損が多い。	外面 ミガキ 赤色塗彩、底部ミガキ。 内面 口+胴中位ミガキ赤色塗彩、下部ミガキ。	完全実測、ほぼ完全。 色調 10R4/8 (赤色)

種別 番号	種類	法量	器形の特徴	成形・調査	備考
47-10	蓋	(13. 2) (17. 7)	胴部細く、縁やかな外壁を持つ受け口蓋。狭い赤色塗部。	外面 口縁部横ナデ→口唇部・頸部・胴中位上唇帯次にL.R.縦文→胴部平行沈線3本・放次文2本、口縁部・蓋上部縦文帯以外赤色塗部(ハケ塗部?) まれにミギキ。 内面 口縁部赤色塗部→胴部ナデ。	完全実測。ロー肩上半残存。 色調 10 Y R 4/8 (赤色)
47-11	蓋	— (7. 0) (5. 0)	小型品。肩下腹残存。狭い赤色塗部。	外面 赤色塗部が方キ、肩下腹ミガキ、底部ナデ。 内面 ハナ、ナデ。	回転実測。1/3残存。 色調 10 R 4/8 (赤色)
47-12	蓋 (新生)	(2. 6) (7. 0) 4. 1	極小型の無取蓋。無彫。	外面 ナデ→ミガキ。 内面 ナデ。	完全実測。口縁一部欠損。 色調 10 Y R 8/4 (淡黄褐色)
47-13	蓋	(2. 6) (7. 0) 4. 1	極小型の無取蓋。無彫。	外面 ナデ→ミガキ。 内面 ナデ。	完全実測。欠陥。 色調 10 Y R 8/4 (いぶい黄褐色)
47-14	蓋	8. 2 (4. 7) —	小型品。外反する口縁部残存。	外面 口縁部横ナデ→わずかにミガキ。赤色塗部少し残る。 内面 横ナデ。→ミガキ。赤色塗部少し残る。	完全実測。口縁部残存。 色調 7. 5 Y R 7/4 (いぶい褐色)
47-15	蓋	7. 6 13. 8 5. 0	小型品。短く外反する口縁。	外面 口縁部横ナデ→胴部から胴部ハケ→ミガキ、底部へリ削り残わずかにミガキ。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。ほぼ完全。 色調 7. 5 Y R 7/4 (いぶい褐色)
47-16	蓋	(10. 5) (10. 2) —	中型の短く外反する口縁。無彫。	外面 口唇部L.R.縦文 口縁部ハケ→横ナデ。胴部L.R.縦文→平行沈線2本 胴上唇ミガキ。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。ほぼ完全。 色調 10 Y R 6/3 (いぶい黄褐色)
47-17	蓋	(11. 9) (6. 8) —	中型の外反する口縁。	外面 口唇部L.R.縦文 口縁部ハケ→横ナデ。胴部L.R.縦文→平行沈線3本、赤色顔料付着。 内面 口縁部ハケ→横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	回転実測。1/2残存。 色調 7. 5 Y R 7/4 (いぶい褐色)
47-18	蓋	3. 3 14. 6 7. 1	口縁部欠損後削り2次利用。外面金線彫彫。胴中に筋状突起1個付き、反対球状突起2つあり。	外面 ミガキ。狭い赤色塗部。底部へリ削り。 内面 胴部ナデ。	完全実測。ほぼ完全。 色調 7. 5 Y R 4/8 (赤色)
47-19	蓋	(14. 8) (4. 2) —	中型の外反する口縁。	外面 ハケ→横ナデ。 内面 横ナデ。	回転実測。口縁1/2残存。 色調 7. 5 Y R 7/4 (いぶい褐色)
47-20	蓋	(15. 6) (5. 3) —	中型の短く外反する口縁。文彫。	外面 口唇部L.R.縦文 口縁部ハケ→横ナデ。胴部横沈線。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ。	回転実測。1/4残存。 色調 10 Y R 7/3 (いぶい褐色)
47-21	蓋	(19. 8) (4. 9) —	L.字状受け口の口縁。	外面 口唇部L.R.縦文 口縁上部L.R.縦文→平行放次文2本、円形彫付文。 内面 口縁部ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 10 Y R 6/3 (いぶい黄褐色)
47-22	蓋	(11. 4) (13. 2) —	中型の短く外反する口縁。口唇部に突起4所付き(1欠損)。	外面 口唇部L.R.縦文 口縁部ハケ→横ナデ。突起付。胴部沈線1本。ミガキ。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。ほぼ完全。 色調 10 Y R 7/4 (いぶい黄褐色)
47-23	蓋	(14. 8) (12. 7) —	大型の短く外反する口縁。	外面 口唇部L.R.縦文 口縁部横ナデ。わずかにミガキ。胴部L.R.縦文→平行放次文2本 胴上部L.R.縦文→わずかにミガキ。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。ほぼ完全。 色調 10 Y R 6/6 (黄褐色)
47-24	蓋	(15. 3) (11. 9) —	大型の短く外反する口縁。	外面 口唇部L.R.縦文 口縁部ミガキ、胴部L.R.縦文 胴上唇ミガキ。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 10 Y R 7/3 (いぶい黄褐色)
47-25	蓋	16. 2 (11. 6) —	L.字状受け口の口縁。	外面 口唇部L.R.縦文 口縁部ハケ→横ナデ→2本放次文沈線。胴部→平行沈線2本→L.R.縦文。口縁下部、胴上唇ミガキ。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。ほぼ完全。 色調 7. 5 Y R 7/6 (褐色)
47-26	蓋	(14. 7) (11. 6) —	中型の外反する口縁。	外面 口縁部ハケ→横ナデ。胴部L.R.縦文→平行沈線4本→放次文2本2回 胴上唇ミガキ。 内面 口縁部→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。欠陥多い。 色調 10 Y R 7/2 (いぶい黄褐色)
47-27	蓋	13. 2 17. 6 (7. 0)	早型の大さく外反する口縁。口唇部に突起付。赤色塗部(2・5 Y R 3/6弱赤褐色)の残存。無彫。	外面 口唇部L.R.縦文 口縁部横ナデ→ミガキ。胴部L.R.縦文→平行沈線6本。放次文。放次文沈線3本。山形・放次文沈線各1本→胴上唇・下部ミガキ赤色塗部。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。上半残存。 色調 10 Y R 6/3 (いぶい黄褐色)
47-28	蓋	— (24. 1) —	口縁・底部欠損。	外面 胴部L.R.縦文→平行沈線2本 胴上部ハケ→ミガキ。 内面 胴部ナデ。	完全実測。ほぼ完全。 色調 7. 5 Y R 7/4
48-29	蓋	— (4. 1) (8. 0)	28の底部か、胴から底部残存。	外面 胴部ミガキ。底部彫り不明。 内面 ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 10 Y R 1. 7/1 (褐色)

種別 番号	器種	注 意	器 形 の 特 徴	成 形 ・ 調 整	備 考
48-30	壺	(11. 8) (8. 7)	中型の外反する口縁。	外面 口唇部L.R. 陶文・口縁部ハケ→横ナゲ、頸部L.R. 陶文→平行沈線4本間に波状文・口縁部横ナゲ→ミガキ、胴部ナゲ。 内面	完全実測。1/2残存。 色調 10YR 5/2 (灰白色)
48-31	壺	(7. 0)	胴部のみ、赤色胎形(7. 5R4/6弱)	外面 胴部L.R. 陶文→波状文1本、横線文(帯6本)を押し引き文で区画→波状押し引き文。 内面 ナゲ	破片実測。破片。 色調 10YR 6/4 (にぶい黄褐色)
48-32	壺	(12. 7)	口縁大横筋部用して二次利用か。	外面 口縁部ハケ→ミガキ、頸部L.R. 陶文→平行沈線4本、波状文1本 胴上部ハケ→ミガキ。 内面 口縁部ハケ→ミガキ、胴部ナゲ。わずかに赤色胎形わずかに残る。	完全実測。1/2残存。 色調 10YR 5/3 (残黄褐色)
48-33	壺	(27. 5) (10. 5)	口縁大横筋。	外面 胴部L.R. 陶文→波状文1本 胴部ミガキ、底部ナゲ、頸部沈線2本あり 内面 胴部著しい。	完全実測。ほぼ完全。 色調 10YR 6/3 (にぶい黄褐色)
48-34	壺	(12. 2)	胴部のみ。	外面 胴部L.R. 陶文→平行沈線4本、波状文沈線1本 胴上部ミガキ。 内面 ナゲ。	完全実測。ほぼ完全。 色調 10YR 7/4 (にぶい黄褐色)
48-35	壺?	(12. 8) (6. 8)	胴文。	外面 口縁部ミガキ。 内面 口縁部ミガキ。	部分実測。破片。 色調 10YR 7/4 (にぶい黄褐色)
48-36	壺	(10. 9)	胴横筋。	外面 口縁部ハケ、胴部L.R. 陶文→平行沈線3本、波状文、平行沈線2本 胴上部ミガキ。 内面 口縁部ミガキ、胴部胴部著しい。	完全実測。胴部実存。 色調 10YR 5/1 (灰白色)
48-37	壺	(13. 2) (25. 5) (7. 5)	中型の外反する口縁。	外面 口唇部L.R. 陶文・口縁部ハケ→横ナゲ→ミガキ、頸部L.R. 陶文→波状文 波状沈線 胴上部ミガキ。わずかに赤色胎形残存。 内面 口縁部横ナゲ→ミガキ、胴部ナゲ。	完全実測。蓋部実測。 色調 10YR 7/3 (にぶい黄褐色)
48-38	壺	(12. 3) 27. 9 (8. 0)	中型の直線的に外反する口縁。	外面 口唇部斜筋 口縁部ミガキ、頸部L.R. 陶文 胴部ミガキ。 内面 内面胴部著しい。	完全実測。ほぼ完全。 色調 10YR 5/2 (灰白色)
48-39	壺	(20. 0)	大型の蓋、胴部のみ残存。	外面 胴部L.R. 陶文→平行沈線3本、波状沈線2本 胴上部ミガキ。 内面 胴部著しい。	完全実測。胴部のみ残存。 色調 10YR 6/4 (にぶい黄褐色)
48-40	壺	(20. 2)	大型の蓋。	外面 胴部L.R. 陶文→平行沈線3本 胴上部ハケ→ミガキ。 内面 ハケ。	完全実測。1/2残存。 色調 7. 5YR 6/4 (にぶい褐色)
48-41	壺	(32. 5)	大型品、頸→胴部横筋。	外面 口縁部ハケ→ミガキ、頸部L.R. 陶文→平行沈線3本、波状山形文、胴上部ハケ→横線文(帯幅文→波状区画) 横ミガキ。 内面 口縁部横ナゲ→ミガキ、胴部ナゲ。	完全実測。口縁・胴下部残存。 色調 7. 5YR 7/6 (褐色)
48-42	壺	(16. 9) (32. 2)	大型の直く外反する口縁。	外面 口唇部L.R. 陶文・口縁部ハケ→横ナゲ、頸部L.R. 陶文→平行沈線4本 胴部ハケ→ミガキ。強い赤色胎形わずかに残る。 内面 口縁部横ナゲ。胴部著しい。	完全実測。口縁から胴中位残存。 色調 10YR 8/2 (灰白色)
48-43	壺	(2. 0) (6. 9)	胴部のみ。	外面 胴部ミガキ赤色胎形、底部ナゲ。 内面 ハケ、ナゲ。	部分実測。1/4残存。 色調 10R 4/8 (赤色)
48-44	壺	(25. 9) (8. 0)	胴から底部横筋。胴縁りが算盤玉状に残る。	外面 胴部ハケ→ミガキ、底部ナゲ。 内面 ハケ、ナゲ。	完全実測。ほぼ完全。 色調 10YR 7/4 (にぶい黄褐色)
48-45	壺	(7. 4) (9. 0)	胴から底部。	外面 胴下部ミガキ、底部? 内面 ハケ、胴部著しい。	部分実測。底部実存。 色調 10YR 1. 7/1 (黒色)
48-46	壺	(12. 6) 9. 4	胴から底部。	外面 胴部ハケ→ミガキ、底部筋り→ミガキ。 内面 ハケ。	部分実測。1/4残存。 色調 10YR 8/3 (残黄褐色)
48-47	壺	(16. 2) 9. 4	胴から底部。	外面 胴部ミガキ、底部ナゲ。 内面 ハケ。	完全実測。1/4残存。 色調 7. 5YR 7/6 (褐色)
48-48	壺	(15. 8) (11. 8)	胴から底部。	外面 胴部横波状沈線→ミガキ、直線部純し不明。 内面 ハケ。	部分実測。1/4残存。 色調 7. 5YR 7/6 (褐色)
48-49	壺	14. 5 (8. 4)	台付頸か、受け口状口縁。	外面 口唇部L.R. 陶文、口縁部横ナゲ、L.R. 陶文→波状山形文(波時計回り)、胴上部L.R. 陶文→コの字重ね文→胴部筋書き波状文→内面筋付文 内面 ミガキ。	完全実測。口縁から胴上平部存。 色調 7. 5YR 6/3 (にぶい褐色)
48-50	台付壺	14. 8 18. 8 8. 7	受け口状口縁	外面 口唇部L.R. 陶文、口縁部横ナゲ、L.R. 陶文→波状文2本筋、胴上部コの字重ね文、胴下部ハケ→ミガキ、脚ナゲ。 内面	完全実測。ほぼ完全。 色調 6YR 7/3 (にぶい褐色)

種 別 番 号	品 種	法 量	結 晶 形 の 特 徴	成 形 ・ 調 理	備 考
49-51	錠	(14. 4)	断面のみ。	外面 裏上層L.R.織文→コの半重石文、裏下層ハケミガキ。 内面 ミガキ。	部分剥離。断面1/3残存。 色調 7. 5 Y R 7/4 (にがい黄色)
49-52	台付錠	19. 4 (9. 2)	受け口状口縁。側欠損。	外面 口縁部L.R.織文。口縁部横ナツ。裏上へ中位部部部斜糸糸織文(7本単位)、裏下部ハケミガキ。 内面 口縁部横ナツ。ミガキ。	完全剥離。ほぼ完全。 色調 7. 5 Y R 7/3 (淡黄褐色)
49-53	台付錠	14. 8 (13. 9) 6. 5	受け口状口縁。	外面 口唇部L.R.織文。口縁部横ナツ。裏上へ中位部部部斜糸糸織文(3本単位)、裏下部ハケミガキ。 内面 口縁部横ナツ。ミガキ、断面ミガキ、脚部ナツ。	完全剥離。ほぼ完全。 色調 10 Y R 6/4 (にがい黄褐色)
49-54	錠	(16. 9) (3. 9)	台付錠か。受け口状口縁のみ残る。	外面 口唇部L.R.織文。口縁部L.R.織文→部横ナツ状文(2本単位)、断面部横ナツ文 内面 口縁部ミガキ。	部分剥離。1/3残存。 色調 7. 5 Y R 7/4 (にがい黄色)
49-55	錠	(14. 8) (5. 7)	受け口状口縁。	外面 口唇部L.R.織文。口縁部横ナツ→部横ナツ状文(2本単位)、裏上部部横ナツ状文(6本単位) 内面 ミガキ。	部分剥離。1/4残存。 色調 7. 5 Y R 7/4 (にがい黄色)
49-56	錠	(14. 6) (8. 5)	断面の横。受け口状口縁。	外面 口縁部横ナツ。断面ハケミガキ 内面 ミガキ。	部分剥離。1/4残存。 色調 7. 5 Y R 4/3 (褐色)
49-57	錠	(16. 9) (3. 9)	台付錠か。口縁部欠損。	外面 断面部部横ナツ状文(8本単位)、断面口の字重石文→断面部横ナツ状文 内面 ミガキ。	部分剥離。1/2残存。 色調 10 Y R 7/4 (淡黄褐色)
49-58	台付錠	4. 8 4. 1 6. 1	台付錠断面用品か。	外面 ミガキ 内面 断面ミガキ、脚部ナツ	完全剥離。ほぼ完全。 色調 7. 5 Y R 6/6 (消赤褐色)
49-59	台付錠	4. 2 3. 5 (3. 2)	台付錠断面用品。上層部断つて断面口縁を作り出している。	外面 ミガキ 内面 断面ミガキ、脚部ナツ、わずかに黒く。	完全剥離。1/2残存。 色調 7. 5 Y R 7/4 (にがい黄色)
49-60	台付錠	(6. 0) (3. 6)	台付錠断面用品。上層部断つて断面口縁。	外面 ミガキ 内面 断面ミガキ、脚部ナツ。	部分剥離。ほぼ完全。 色調 7. 6 Y R 8/3 (淡黄褐色)
49-61	台付錠	(4. 0) (6. 8)	断面のみ。	外面 ナツ。 内面 断面ミガキ、脚部ナツ。	完全剥離。完全。 色調 8 Y R 6/6 (褐色)
49-62	錠	(14. 0) (22. 5)	口縁部横ナツの横。受け口状口縁。器内が薄い。	外面 口縁部横ナツ。ミガキ、断面ハケミガキ。 内面 断面部部横ナツ状文(6本単位)、断面部横ナツ状文→断面ミガキ。	部分剥離。1/8残存。 色調 7. 5 Y R 7/4 (にがい黄色)
49-63	錠	(16. 4) (5. 4)	受け口状口縁。	外面 口唇部L.R.織文。口縁部横ナツ。ミガキ。 内面 断面部部横ナツ状文(6本単位) 断面部部横ナツ文。	部分剥離。1/4残存。 色調 7. 5 Y R 3/2 (黒褐色)
50-64	錠	21. 8 (14. 7)	短く折れる口縁。	外面 口唇部L.R.織文。口縁部横ナツ。裏上へ中位部部部斜糸糸織文(4本単位) 断面部部横ナツ状文(6本) 織文→コの半重石文→断面部部横ナツ状文 断面部横ナツ文 内面 口唇部L.R.織文。断面ハケミガキ。	部分剥離。口縁から裏上へ1/2残存。 色調 10 Y R 7/4 (にがい黄褐色)
50-65	錠	(12. 2) 9. 8	錠の下層か。	外面 裏上部部部斜糸糸織文。裏下部ハケミガキ。 内面 ミガキ。	完全剥離。ほぼ完全。 色調 10 Y R 6/4 (にがい黄色)
50-66	錠	23. 8 (25. 0)	短く外反する口縁。	外面 口縁部横ナツ。断面部横ナツ。断面ハケミガキ。 内面 断面部部斜糸糸織文(5本単位)、ミガキ。	完全剥離。断面欠損。 色調 10 Y R 7/4 (にがい黄褐色)
50-67	錠	19. 9 24. 1 7. 6	受け口状口縁。	外面 口唇部L.R.織文。口縁部横ナツ→L.R.織文。断面部部斜糸糸織文(5本単位) 断面ミガキ。断面ミガキ。 内面 ミガキ。	完全剥離。ほぼ完全。 色調 10 Y R 8/3 (黄褐色)
50-68	錠	(23. 0) 8. 5	口縁部欠損。	外面 口縁部横ナツ。断面ハケミガキ。断面部部横ナツ状文。断面部横ナツ状文(5本単位)、断面ミガキ。断面ナツ 内面	完全剥離。ほぼ完全。 色調 7. 5 Y R 5/4 (にがい黄色)

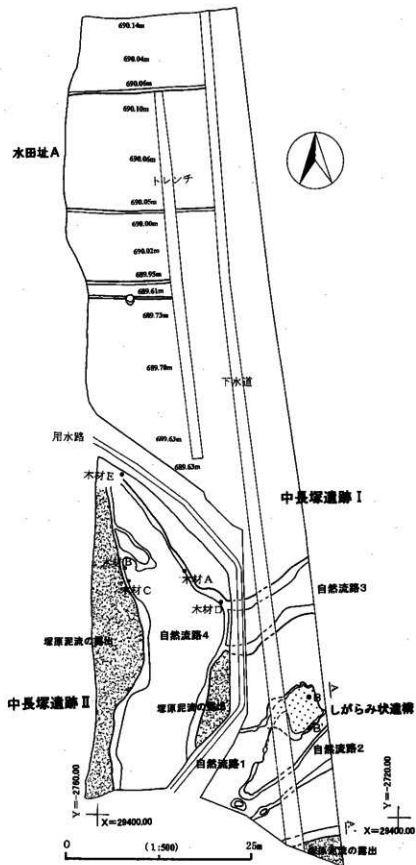
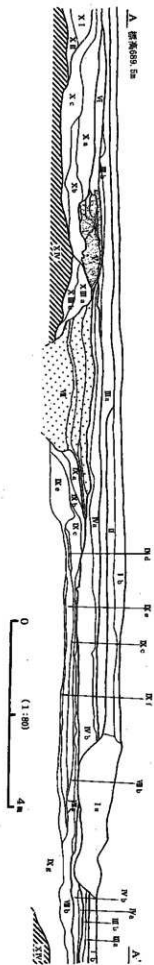
第Ⅱ章 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ、松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ

第1節 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱの遺構

中長塚遺跡は、岩村田市街地の西方、約0.8kmの低地に所在し、付近は広く水田地帯として利用されている地域である。周辺には弥生時代から平安時代の多くの遺跡が所在する。特に北西に位置する濁り遺跡からは調査区一面に大規模な古代の水田址が発見され、周辺の古代集落の生産活動を考える上で貴重な発見であった。また、本遺跡では平成5年下水道工事に伴う立ち合い調査で、古い環跡らしき木組みが発見されている。今回、佐久建設事務所が国補道路改良工事（国道141号佐久市長土呂バイパス）を行うことになり、佐久建設事務所と長野県文化課および佐久市教育委員会の協議の結果、記録保存調査を実施することになった。調査は佐久建設事務所より委託を受けた佐久市教育委員会が中長塚遺跡Ⅰ（平成8年度）・中長塚遺跡Ⅱ（平成10年度）の現場調査を実施した。



第56図 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ位置図（1：5,000）



第57図 中長塚遺跡 I・II 調査全体図 (1:500)

中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱの調査では、水田址Aと水田址B及びしがらみ状遺構、自然流路が検出された。

水田址Aは調査区のほぼ中央、現水田下50cmから検出された。第Ⅴb層上面において畦畔状の高まり、段差が直線的に認められた。現水田から第Ⅴa層の間に少なくとも2面の水田面が考えられそうである。水田址Aの確認面とその上部の第Ⅴa層より第5表の13世紀から15世紀の陶磁器が出土し、近世陶磁器とのほとんどはⅡ層の下部からの出土である。

水田址Bは調査区の南側部から検出され、西流する前川のかつての流路であったと思われる。砂・シルトの堆積が

1mあまりみられた。Ⅰa層・Ⅰb層は現在の水田である。Ⅱa層以下のプラント・オパール分析でⅡa・Ⅱb・Ⅲ・Ⅳ層から5,000個/g以上が検出された。畦畔状の直線的な高まりがみられたのは、Ⅳ層上面である。Ⅳ層は水田址AのⅢa層にあたり、17世紀前半から19世紀の近世陶磁器が出土している。

しがらみ状遺構は、自然流路1の流れに対して斜めに構築されている。自然流路は4本あるが、4は現在の幹線水路の旧路であり、他の3本は中世陶磁器が包含されるⅤa・Ⅴb層より下部にある。自然流路1のV層、しがらみ状遺構下部のピットから第77図5～10、12～17の弥生時代後期後半の甕が出土した。いづれも摩耗していない。しがらみ状遺構は杭を両側に打ち込み、板木をわたす構造であったようである。地形は南西に傾斜しており、井堰の機能を持つならば出水口は西側になる。貯水の機能を持つものかは、西側が下水道工事で消滅しており不明である。

板材は第61図2～5・8・25・115の板材の先端を尖らせたものや、46・47・96の自然木を使用している。板材は、1m前後である。

横木には2mを越す板材や自然木がみられる。103はもともと長いもので3.1mを測る。100の丸木(コナラ)は2mあり、先端を尖らせている。住居の柱材であろうか。1(サワラ)の板材は2.75mで2カ所に桁穴を持ち住居の横架材であろうか。一つは貫通し、他は貫通していない。

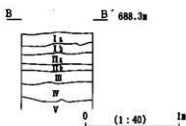
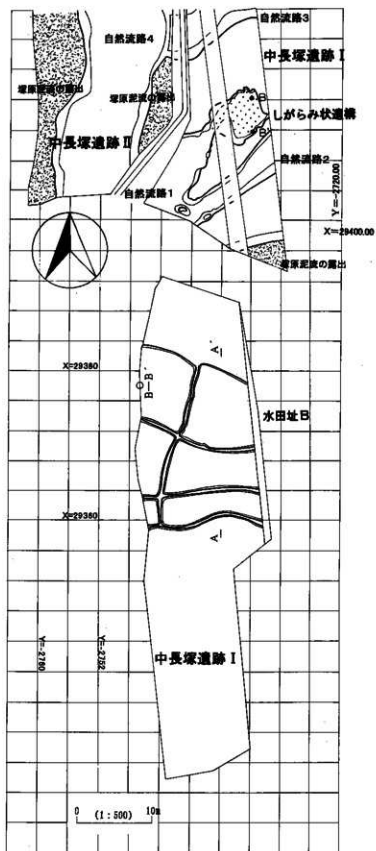
180点の出土木材の115点を樹種同定した。多い順にコナラ節、ヤナギ属、クスギ節、クリ、サワラ、クロベ、ヤマガワ、モモ、モミ属、オニグルミであった。

建築材とみられる板材・角材は、コナラ節45%、サワラ15%、クリ15%、クスギ節13%で善光寺平の弥生時代建築材と比較するとサワラの割合が高いのが特徴的である。

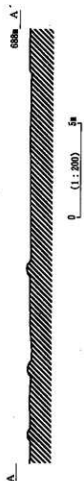
第78図4は、しがらみ状遺構の下部より出土した柄と鋤身を一本で作成した一木鋤である。柄は水平でなく鋤身の大きさに対して柄が細い作りである。樹種はヤマガワ鋤身の長さ36cm・2.4cmを計測する。

しがらみ状遺構検出地区の東面層序

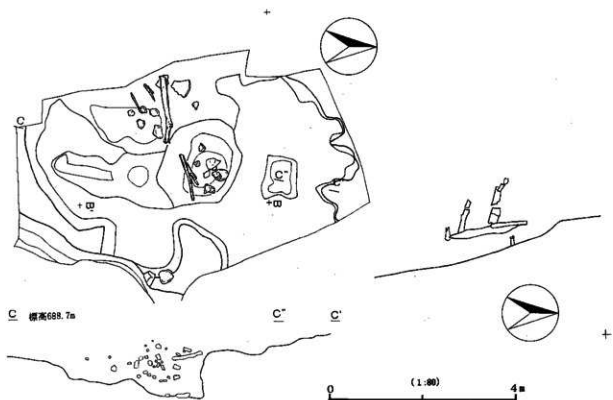
- I 層 現在の水田耕作土と畦畔及び水路
- Ⅰa層 黒色土 (10YR2/1)
- Ⅰb層 黒褐色土 (10YR3/2)
- Ⅱ層 黒褐色土 (10YR3/1) 粘質強。
- Ⅲ層 2面目の水田
- Ⅲa層 黒色土 (10YR2/1) 粘質強、白色の軽石多量を含む。
- Ⅲb層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質強、酸化鉄の集積。
- Ⅳ層 3枚目の水田
- Ⅳa層 黒色土 (10YR2/1) 粘質強、白色の軽石多量を含む。
- Ⅳb層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘質強に酸化鉄の集積。
- V 層 自然流路1
- 粘質土・シルト・細砂・粗砂がみられる。
- Ⅵ層 黒色土 (10YR2/1) 粘質強、白色の軽石、細砂多く含む。
- Ⅶ層 自然流路2
- 下層より褐灰色細砂、黒褐色シルト含む粘質土、黒褐色シルト、灰黄褐色の細砂、灰黄褐色の細砂と粘質土が堆積している。
- Ⅷ層 4枚目の水田?
- Ⅶa層 灰黄褐色土 (10YR4/1) 細砂。
- Ⅶb層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘質強、細砂多く含む。
- Ⅷ層 自然流路2より古い自然流路
- Ⅷa層 黒褐色土 (10YR3/2) 細砂。
- Ⅷb層 黒褐色土 (10YR3/2) 細砂、粘質土。
- Ⅷc層 黒褐色土 (10YR3/2) 粗い砂層。小礫多量。
- Ⅷd層 黒褐色土 (10YR2/2) 小礫層。
- Ⅷe層 にぶい黄褐色土 (10YR3/2) 細砂、粘質土。
- Ⅷf層 暗褐色土 (10YR3/3) シルト粘質土。
- Ⅷg層 黒褐色土 (10YR2/2) 小礫層。
- X 層 自然流路1
- Xa層 黒色土 (10YR1.7/1) 粘質強。
- Xb層 黒褐色土 (10YR3/2) 細砂に粘質土のブロックを含む。
- Xc層 黒褐色土 (10YR3/2) 強粘土。
- XⅠ層 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土、少量の細砂含む。
- XⅡ層 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土、少量の細砂含む。
- XⅢ層 しがらみ状遺構の構築土。
- XⅢa層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘質強、粗砂と小礫 (0.5~1cm)
- XⅢb層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 酸化鉄集積、礫 (5~10cm) 多い。50cm前後の礫も少量みられる。
- XⅣ層 浸食された浅間第1軽石流の堆積物?
- 灰白色 (10YR8/2)・緑褐色 (10GY3/1)・黒褐色 (10YR3/2) をしている。



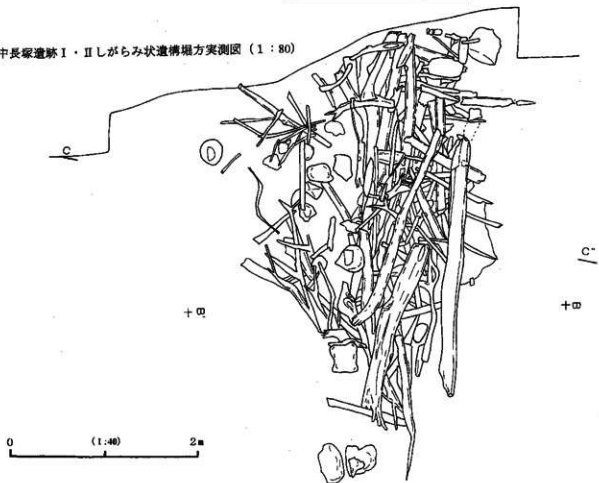
- 中長塚遺跡 I 水田址 B 層序
- | | | |
|-------|---------------|------------|
| I a層 | 黒褐色土(10YR2/3) | 水田耕土(砂質土) |
| I b層 | 赤褐色土(5YR4/6) | 水田耕土(砂質土) |
| II a層 | 黒褐色土(10YR2/3) | 水田耕土(砂質土) |
| II b層 | 赤褐色土(5YR4/6) | 水田耕土(砂質土) |
| III層 | 黒褐色土(10YR2/1) | 水田耕土(砂質土) |
| IV層 | 黒色土(10YR2/1) | B地区のIII a層 |
| V層 | 褐灰色土(10YR4/1) | B地区のXIV層 |



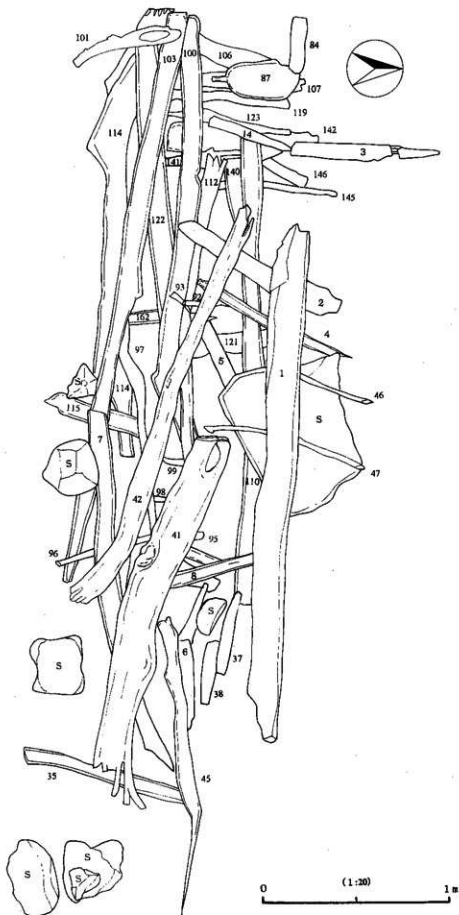
第 58 図 中長塚遺跡 I・II 調査全体図 (1:500)



第59図 中長塚遺跡I・IIしがらみ状遺構場方実測図 (1:80)



第60図 中長塚遺跡I・IIしがらみ状遺構構築材出土状況 (1:40)



第 61 図 中長塚遺跡 I・II しがらみ状遺構構築材出土状況 (1:20)

第2節 松の木遺跡 I・IIの遺構

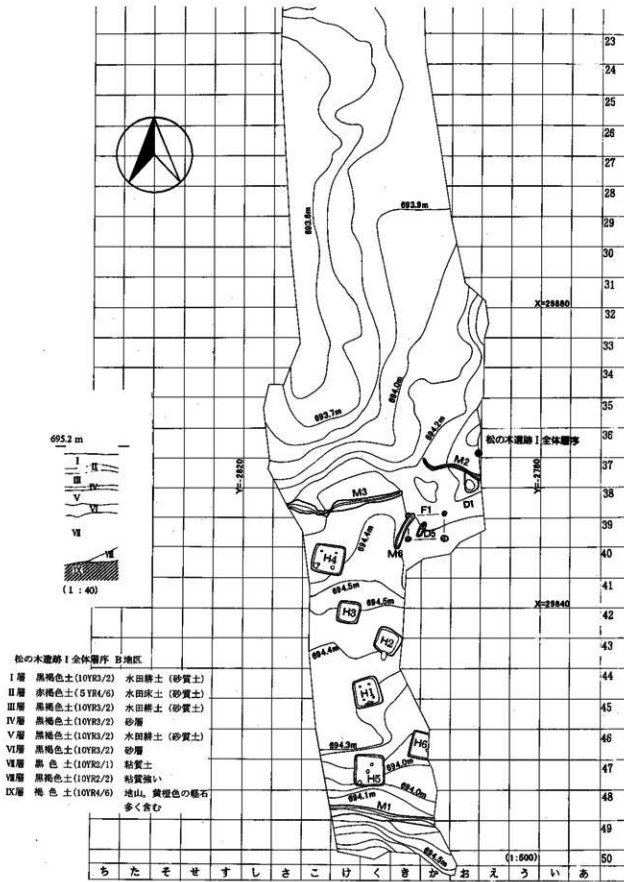
松の木遺跡は、佐久市立浅間中学校の西側にあつて、標高は695 mを測る。付近は新幹線佐久平駅周辺区画事業によって地形が大きく変化している。遺跡付近では、田切り地形が消滅し、一見平坦な地形を見せているが、羣原泥流の残丘が埋没しており決して平坦な地形でないことが、いくたの発掘調査によりわかつてきている。残丘周辺の平坦地と北東から残丘に伸びる微香地、それを取り巻く低湿地といった地形が随所にみられる。

残丘周辺の平坦地および微高地上から、おもに弥生時代後期後半、弥生時代後期末から古墳時代初頭の小集落が調査されている。付近では、松の木遺跡Ⅲ、清水田遺跡Ⅱ、下伯母塚遺跡、辻の前遺跡で5～10棟程度の竪穴住居址が検出されている。

今回の調査は、国道141号バイパスの道路用地幅25 m延長400 m内を2年度にわたり調査した。低地を挟んだ南と北側に羣原泥流の残丘が存在し、いずれもその北側部分の周囲を低地に囲まれた平坦地から弥生時代後期後半、弥生時代末、古墳時代の竪穴住居址等が検出された。



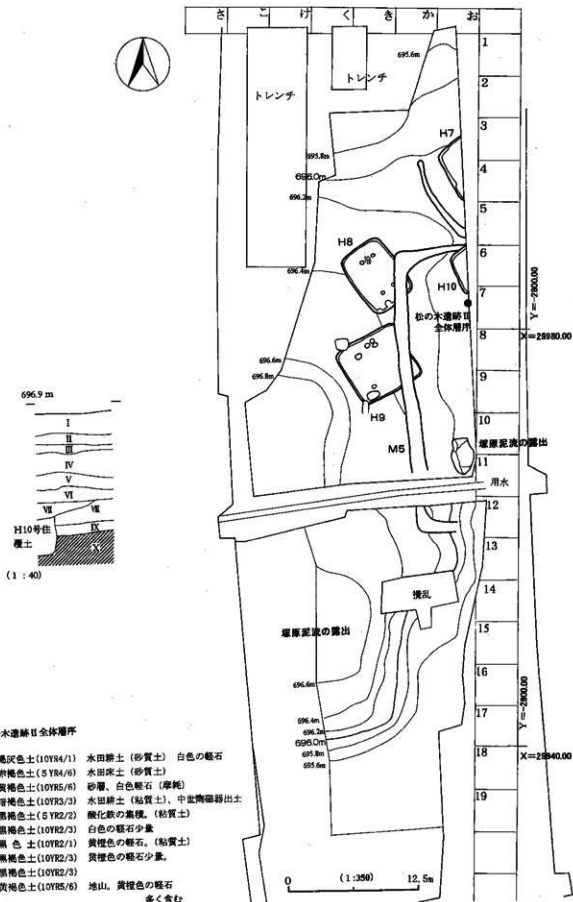
第62図 松の木遺跡 I・II位置図 (1:5,000)



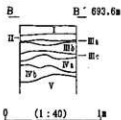
松の木遺跡 I 全体層序 B 地区

- I層 黒褐色土(10YR3/2) 水田耕土(砂質土)
- II層 赤褐色土(5YR4/6) 水田床土(砂質土)
- III層 黒褐色土(10YR3/2) 水田耕土(砂質土)
- IV層 黒褐色土(10YR3/2) 砂層
- V層 黒褐色土(10YR3/2) 水田耕土(砂質土)
- VI層 黒褐色土(10YR3/2) 砂層
- VII層 黒色土(10YR2/1) 粘質土
- VIII層 黒褐色土(10YR2/2) 粘質強い
- IX層 褐色土(10YR4/6) 地山、黄褐色の礫石多く含む

第 63 図 松の木遺跡 I 調査全体図 (1 : 500)

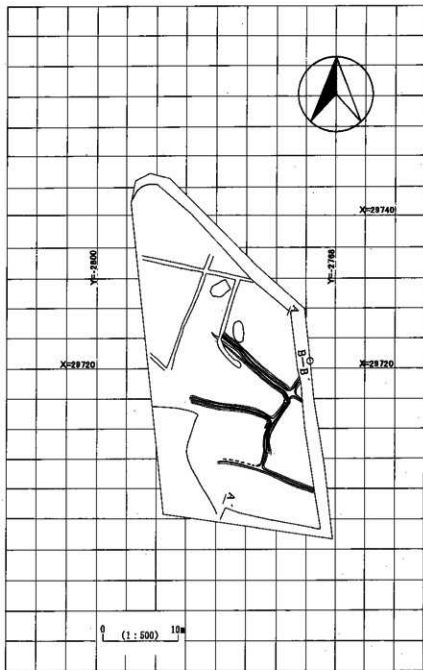


第64図 松の木道跡II調査全体図 (1:350)



松の木遺跡 I 全体層序 A地区

- I 層 黒褐色土(10YR3/2) 水田耕土(砂質土)
 II 層 赤褐色土(5YR4/6) 水田床土(砂質土)
 IIIa 層 褐色土(10YR4/4) 砂層
 IIIb 層 黒褐色土(10YR3/2) 砂質土
 IIIc 層 褐色土(10YR4/4) 砂と礫
 IVa 層 黒色土(10YR2/1) 粘質有り、上面が水田址A。上面より北宋銭、中・近世陶磁器出土
 IVb 層 黒色土(10YR3/2) 粘質有り。B地区のV層
 V 層 黒褐色土(10YR2/2) 粘質強い。B地区のVI層



第65図 松の木遺跡 I 水田址実測図 (1:500)

(1) 竪穴住居址

1 H1号住居址

本住居址は、え・おー 45・46 グリッド、全体層序Ⅶ層中およびⅩ層上面から、検出された。規模は、南北 3.86m 東西 3.64m の南北にわずかに長い長方形を呈する。壁高は 30～52cm を測り、長軸方位は $N-18^{\circ}-W$ を示す。覆土は 7 層に分層されたが、2・5 層が大半を占める。床面は 13 層を埋め戻して構築されているが掘方は浅い。全体に堅い。

ピットは 7 個検出され、P 1～P 4 が主柱穴である。深さ 17～29cm で、長方形に配される。P 5～P 7 は南壁下中央にあり、深さ 23cm を測る。入り口施設に関するものであろう。特に P 7 は中に向けて斜めに掘られている。炉は北側主柱穴の P 1 と P 2 の中央に位置する。炉内より出土した 81 図 17 甕片の内外面に煤の付着があり、土器敷き炉とみられる。

遺物は蓋 (第 82 図 30)、ひさご蓋 (81 図 9)、櫛描波状文を持つ甕ないしは台付甕 (10・15、17～20)、外面ハケ調整される甕・台付甕 (11・12、21・23～28)、高坏 (2～7)、手握土器 (8) が図示できた。Ⅱ区覆土よりモモ、イネ 6 点、ムギ類 1 点の炭化種子が出土した。

東海系等の外来性土器群の 2・4・5・7・9・11 は、覆土上層か 2 層中の出土である。12 の台付甕口辺部には、櫛描文の名残りのような横線文がわずかにみえる。7 の高坏は、東海の罫間式のⅡ～Ⅲ期前半、2 は罫間式のⅡ期のものに似る。2 は外面に沈線で区画された中に、櫛による刺突が施される。8 の底部には小孔がみられる。弥生時代後期末の様相を持つ、乱れた櫛描波状文と簾状文が施される甕等が、本址に帰属するものである。

2 H2号住居址

本住居址は、う・えー 43・44 グリッド、全体層序Ⅶ層中およびⅩ層上面から、検出された。規模は、南北 3.4m 東西 3.36m のやや不整な隅丸方形を呈し、壁高は 12～26.5cm を測り、長軸方位は $N-60^{\circ}-W$ を示す。覆土は 3 層に分層されたが、1 層が大半を占める。床面は 5 層を埋め戻して構築されている。掘方は浅く、全体に柔らかい。

ピットは、北壁角に 1 個検出され、ピットを中心に両壁中央まで壁溝がみられる。炉址は、ない。遺物は甕 (第 83 図 5～8)、鉢 (10)、高坏 (3)、鉢または高坏 (1・2) 等が図示できた。4 は、大形の鉢ともよぶのか、外側に短く折り返される口縁端部を持ち、体部内外面ミガキされ特に外面は、斜めの丁寧なミガキがみられる。9 はおそらく甕の器形となろうが、箱清水式の甕にみられる通常のミガキでなく、まことに丁寧な横方向のミガキである。

3 H3号住居址

本住居址は、おー 42・43 グリッド、全体層序Ⅹ層上面から、検出された。規模は、南北 3.0m 東西 3.12m の隅丸方形を呈し、壁高は 8～195cm を測り、長軸方位は $S-82^{\circ}-E$ を示す。覆土は 3 層に分層されたが、1 層が大半を占める。床面は 6 層を埋め戻して構築されている。掘方は浅く、全体に柔らかく平坦でない。ピットは、検出されない。炉址は東壁近くにあり、地床炉である。遺物は少量で、台付甕 (第 83 図 2・3)、高坏 (1・4) が図示できた。2 は、内面に 2～3 状の平行線の中に連続する「ハ」の字がヘラミガキ状に施されている。遺物は少ないが外来系の要素の強いものである。2 の高坏は罫間式Ⅱ期に該当しうかがう。

4 H4号住居址

本住居址はおー 40・41 グリッド、全体層序Ⅹ層上面から検出された。規模は、南北 3.88m 東西 4.3m の東西に長い隅丸長方形を呈し、壁高は 23～45cm を測り、長軸方位は $S-82^{\circ}-E$ を示す。覆土は 7 層に分層されたが、2・3・5 層が大半を占める。床面は 14 層を埋め戻して構築されている。全体に堅い。

ピットは床面上から 5 個検出され、P 1～P 4 が主柱穴である。深さ 12.5～36cm で、方形に配される。P 5 は南西壁下にあり、深さ 27cm を測る。底面に張り付いた貯蔵されたかのような粘土がみられた。P 1 と P 2 には、径 16cm の柱痕が認められた。床下から 4 個のピットが検出された。P 7 と P 6 は古い主柱穴であろうか。

炉は、ない。

遺物は少量で、甕 (第 83 図 1)、蓋 (第 84 図 2) が図示できた。イネの炭化種子がⅠ区床上 2 点、Ⅳ区床上から 7 点、出土した。1 は P 4 の上面、2 は P 1 と P 4 の間の覆土 3 層下部から出土した。1 は、外面口辺部に縦の肩部に羽状の櫛描文が、頸部には櫛描簾状文が施される。口縁端部は外側に折り返されている。2 は、球形の胴部を持つ

査で赤色塗彩は、みられない。箱清水式土器特有の頸部の「T」字文もなく、申し訳程度の櫛播横線が施されている。弥生時代後期末の様相をみせている。

5 H5号住居址

本住居址はエ・おー47・48グリッド、全体層序VII層から検出された。規模は、南北4.06m 東西4.0mの隅丸方形を呈し、壁高は0~9cmを測り、長軸方位はNを示す。確認面が覆土と類似していたことと、上部を耕作により削平されていたため、覆土は1層しかない。床面は5層を主に埋め戻して構築されている。全体に柔らかい。

ピットは床面上から3個検出された。P1は深さ20cmを測り柱穴であろうか。P2が北西壁下に、P3が南西壁下にあり、深さ18cm、40cmを測る。床下から6個のピットが検出された。

床面ほぼ中央に僅か1.5cmの掘り込みの中に焼土がみられ、炉の存在を思わせる。

遺物は、甕(第84図7~9)、小形甕(4・5)、高坏(1・2)が図示できた。イネの炭化種子がI区堀方から4点、II区堀方から23点、III区堀方から27点、IV区堀方から4点、ムギ類II区堀方から1点、コムギがIII区堀方から1点出土した。3は高坏か器台の脚であろうか。内面に輪積み痕を残す。11は壺であろうか、赤色塗彩されず外面丁寧なミガキが施される。6は甕の器形であるが、内外面丁寧にミガキされる。

甕にくずれながらも箱清水式の特徴を残すが、他の器種には東海系などの新しい要素がみられる。

6 H6号住居址

本住居址は、い・うー47グリッド、全体層序VII層から検出された。規模は、南北3.66m 東西(2.6)mのおよそ隅丸長方形を呈し、壁高は4~20cmを測り、長軸方位はN-12°-Eを示す。

覆土は4層に分層された。焼失住居であり、3層は多量の炭化材で上部の2層には焼土がみられた。このことは、屋根に土が被覆されていたことを思わせる。

床面は8層を埋め戻して構築されている。全体に柔らかい。

ピットは床面上から19個検出された。P1~P4が主柱穴である。深さ14.5~23cmで、やや不整な方形に配される。南壁下に2個のピットがあり、入り口施設に關したものであろう。深さ11cm、15cmを測る。西壁下に直線上に15個の小ピットがある。壁立てに關するものか。西壁下に深さ5~10cmの壁溝がみられる。

遺物は、台付甕(第85図5・6)、小形甕?鉢?(3)、器台(1)、甔(2)、ミニチュアの手捏土器が図示できた。イネとオオムギの炭化種子が1点づつ床面上から出土している。2は高温により焼け土が癒着し、器形も歪んでしまっている。

箱清水式の土器はみられず、外来系の土器が主体を占める。1の器台は、東海の瀬間式II期によく似るものである。

7 H7号住居址

本住居址は、おー3・4グリッド、全体層序VII層上面から検出された。規模は、南北(4.84m) 東西(28)mを測るが半分以上は、調査対象地外にある。P1の位置から長方形を呈するとみられる。壁高は35~38cmを測り、長軸方位はN-30°-Wを示す。覆土は6層に分層された。

深さ21cmのP1は、位置から主柱穴であろう。

遺物は、弥生時代後期末とみられるくずれた櫛播波状文が施された甕(第85図1)が図示できたのみである。

8 H8号住居址

本住居址はかへくー5~7グリッド、全体層序VII層上面から検出された。M5号溝状遺構に南東コーナー付近を破壊される。規模は、南北6.56m 東西4.6mの隅丸長方形を呈し、壁高は30~42cmを測り、長軸方位はN-35°-Wを示す。覆土は5層に分層された。床面はX層を堅く敷き締めて構築されている。堀方はない。

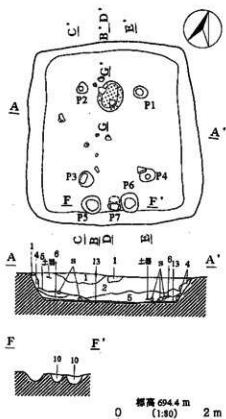
ピットは10個検出され、P1~P4が主柱穴である。深さ55~66cmと深く、長方形に配される。南壁下に3個のピットがあり、入り口施設に關したものであろう。深さP7が31cm、15cmを測る。

炉は北側主柱穴のP1とP2の中央に位置する。炉内には壺(第86図6)底部が埋設され、南側には伊織石が2個みられた。

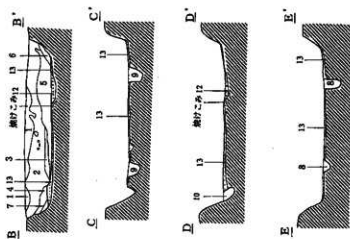
遺物は、甕(第85図3、第86図4)、台付甕壺(2)、無頸壺(1)、土製円盤(1・2)等が図示できた。

7の土製円盤は高坏か壺口辺部片を、8は壺口辺部片の周縁を加工したものである。弥生時代後期後半に比定されよう。

H 1号住居址

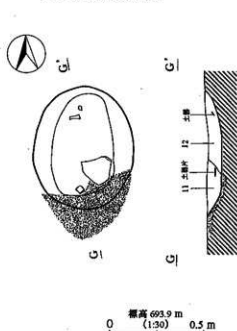


H 1号住居址実測図

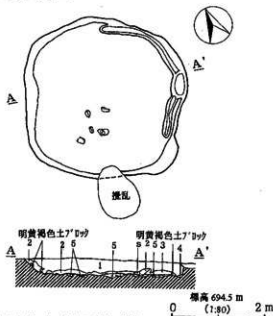


- 1層 黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色・にぶい赤褐色の礫石多量、黒色土のブロック多量を含む。
- 2層 黒褐色土(10YR3/1) 黄褐色・にぶい赤褐色の礫石多量、黒色土のブロック少量、明黄褐色土多量、炭を少量含む。
- 3層 黒色土(10YR2/1) 炭少量。
- 4層 褐色土(10YR4/4) 黄褐色・にぶい赤褐色の礫石多量。
- 5層 黒色土(10YR2/1) 黄褐色・にぶい赤褐色の礫石多量、炭少量。
- 6層 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色・にぶい赤褐色の礫石少量。
- 7層 黒褐色土(10YR2/2)
- 8層 黒褐色土(10YR2/3) 明黄褐色土の小ブロック少量。
- 9層 黒褐色土(10YR2/3) 明黄褐色土の小ブロック多量。
- 10層 黒褐色土(10YR2/2) 炭が多い。
- 11層 黒褐色土(10YR2/2) 炭土粒子少量。
- 12層 黒色土(10YR2/1) 炭少量。
- 13層 黒褐色土(10YR2/2) 明黄褐色土の小ブロック含む。(床下埋め土)

H 2号住居址



H 1号住居址炉址実測図

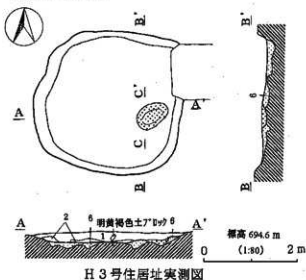


- 1層 黒褐色土(10YR2/2) 炭少量。
- 2層 黒褐色土(10YR3/3) 明黄褐色土のブロック多量。
- 3層 黒褐色土(5YR2/1) 炭土・ローム粒子少量。
- 4層 にぶい赤褐色土(5YR4/3) 炭土ブロック・炭。
- 5層 黒褐色土(5YR3/1) 炭・ローム粒子を含む。
- 6層 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック・ローム粒子を含む。

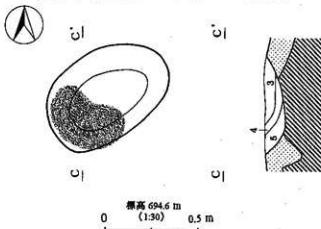
H 2号住居址実測図

第 66 図 松の木道跡H 1号住居址、H 2号住居址実測図

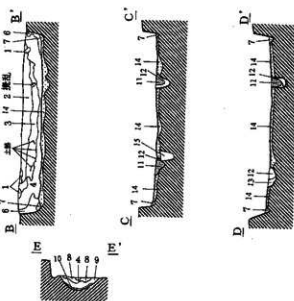
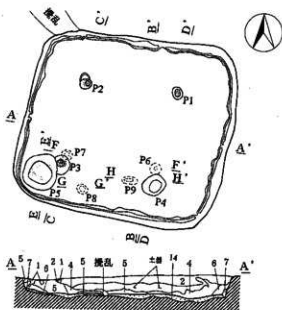
H 3号住居址



- | | | |
|----|------------------|-------------------|
| 1層 | 黒褐色土 (10YR2/2) | 炭少量。 |
| 2層 | 黒褐色土 (10YR2/3) | 黄褐色土のブロック多量。 |
| 3層 | 黄褐色土 (5YR2/1) | 炭・ローム粒子少量。 |
| 4層 | にがい黄褐色土 (5YR4/3) | 炭土ブロック・炭。 |
| 5層 | 黒褐色土 (5YR3/1) | 炭・ローム粒子を含む。 |
| 6層 | 黒褐色土 (10YR3/1) | ロームブロック・ローム粒子を含む。 |



H 4号住居址



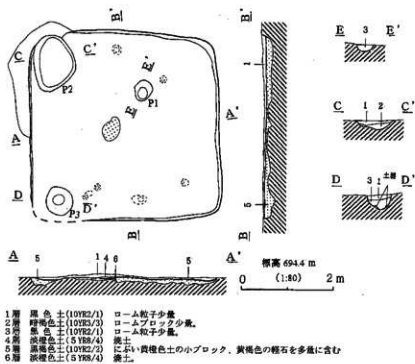
- | | | |
|----|-------------------|----------------------|
| 1層 | 黒褐色土 (10YR2/2) | 砂質土。 |
| 2層 | 黒褐色土 (10YR2/3) | 砂質土のブロック少量。 |
| 3層 | 黄褐色土 (10YR1, 5/1) | 土跡多く出土。 |
| 4層 | 暗褐色土 (10YR3/3) | |
| 5層 | 暗褐色土 (10YR4/4) | |
| 6層 | 黒褐色土 (10YR2/2) | |
| 7層 | 黒褐色土 (10YR2/2) | にがい黄褐色土・褐色土の小ブロック含む。 |
| 8層 | 黒褐色土 (10YR2/2) | |

- | | | |
|-----|-------------------|-------------------------|
| 9層 | 黒褐色土 (10YR2/3) | |
| 10層 | 暗褐色土 (7.5YR5/6) | 粘土。 |
| 11層 | 黄褐色土 (10YR2/3) | 炭らしい。柱痕。 |
| 12層 | にがい黄褐色土 (10YR4/3) | 炭らしい。 |
| 13層 | 暗褐色土 (10YR4/6) | 黄褐色土の小ブロック多量を含む。(灰下詰め土) |
| 14層 | 暗褐色土 (10YR3/1) | |
| 15層 | にがい黄褐色土 (10YR4/3) | |

H 4号住居址実測図

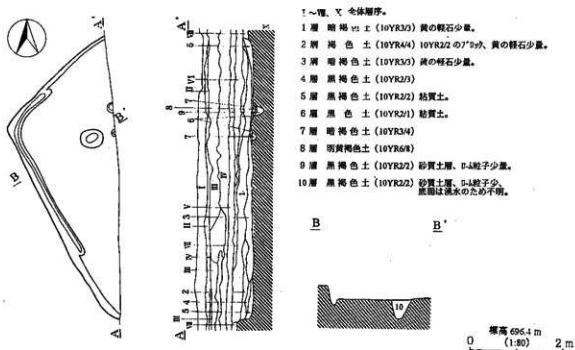
第 67 図 松の木道跡 H 3号住居址、H 4号住居址実測図

H 5号住居址



H 5号住居址実測図

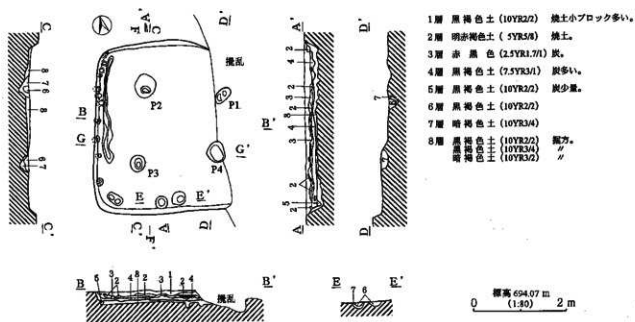
H 7号住居址



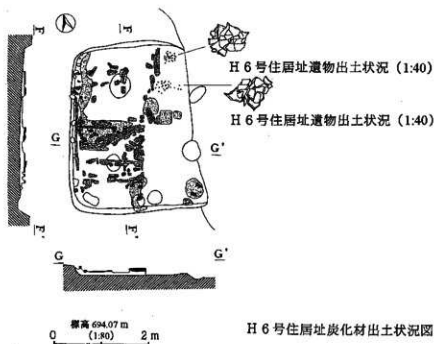
H 7号住居址実測図

第 68 図 松の木道跡H 5号住居址、H 7号住居址実測図

H 6号住居址



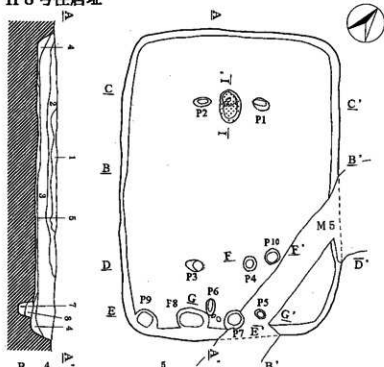
H 6号住居址実測図



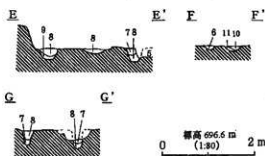
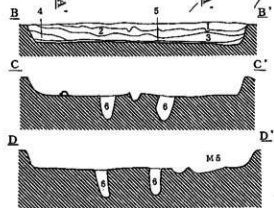
H 6号住居址炭化材出土状況図

第 69 図 松の木遺跡H 6号住居址実測図

H 8号住居址

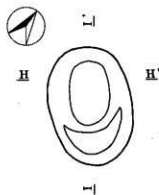
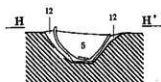
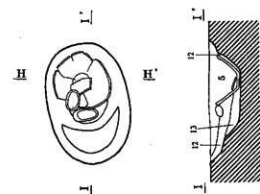


- 1層 黒褐色土(10YR2/2) 5cm以下の礫石・ローム粒子少量。炭化粒子少量
- 2層 暗褐色土(10YR3/3) 5cm以下の礫石・ローム粒子・黒褐色土の小ブロック少量。炭化粒子少量。
- 3層 におい・黄褐色土(10YR4/3) こぶし大の礫石・ローム粒子・炭化粒子少量。
- 4層 褐色土(10YR4/4) ローム粒子多量。炭化粒子少量
- 5層 黒褐色土(10YR2/3) 粘性あり。炭化粒子少量。
- 6層 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒子少量。
- 7層 におい・黄褐色土(10YR5/4) ローム主体。黒褐色土のブロック含む。
- 8層 黒褐色土(10YR2/2) 締まりない。ローム粒子少量。
- 9層 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子・ブロック含む。
- 10層 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒子・炭化粒子少量。
- 11層 黒色土(10YR1.7/1) 炭主体。
- 12層 黒色土(10YR2/1) 炭含む。
- 13層 褐色土(10YR4/4) ローム粒子多量。



H 8号住居址実測図

標高 666.5 m
(1:30) 2 m

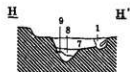
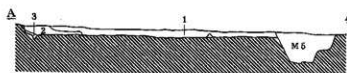
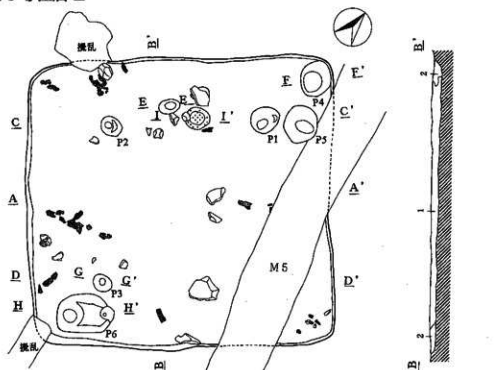


標高 669.1 m
(1:30) 0.5 m

H 8号住居址炉址実測図

第70図 松の木遺跡H 8号住居址実測図

H 9号住居址

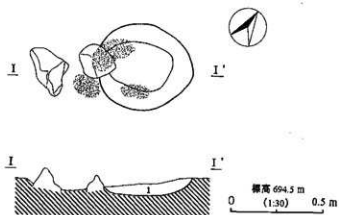


0 標高 696.7 m (1:30) 2 m

- 1層 黒褐色土 (10YR2/2) 炭 (1~2cm) 多量、焼土の小ブロック少量、
礫石 (3~5cm) 少量含む。
- 2層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭 (1~2cm) 少量、焼土の小ブロック少量。
- 3層 黄褐色土 (10YR5/8)
- 4層 暗褐色土 (10YR3/4) 黒褐色土のブロック少量。
- 5層 褐色土 (10YR4/4) ロームブロック多量。
- 6層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子少量。
- 7層 黒褐色土 (10YR2/3) 炭少量、礫石・小礫 (1cm大)・ローム粒子少量。
- 8層 褐色土 (10YR3/3) ローム粒子少量。
- 9層 褐灰色土 (10YR4/1) 灰白色粘土多量。
- 10層 にごい黄褐色土 (10YR4/3) 炭・ローム粒子少量。
- 11層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒子少量。
- 12層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子少量。
- 13層 黒褐色土 (10YR2/3) 焼土ブロック、炭少量。

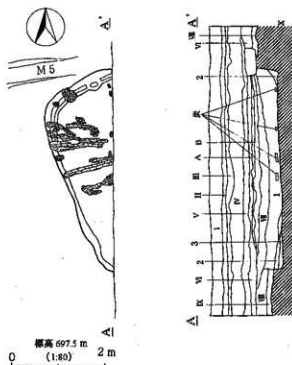
H 9号住居址実測図

第 71 図 松の木遺跡H 9号住居址実測図



H 9号住居址炉址実測図

H 10号住居址



H 10

I ~ X層

全体層序

- 1層 赤色土 (10YR3/3) 炭化材・焼土・ローム粒子含む。
 2層 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土・ローム粒子少量。
 3層 黄褐色土 (10YR3/4) ローム粒子・ロームブロック含む。

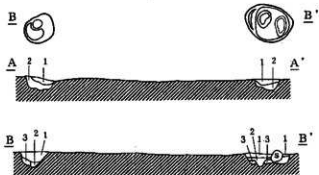
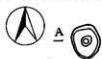
A層 暗褐色土 (10YR3/4) 砂層
 H 10号住居址礎土上部にだけ
 みられる層

B層 黒褐色土 (10YR2/2)
 H 10号住居址礎土上部にだけ
 みられる層

H 10号住居址実測図

第72図 松の木遺跡H 9号住居址炉址、H 10号住居址実測図

F 1号掘立柱建物址

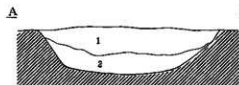
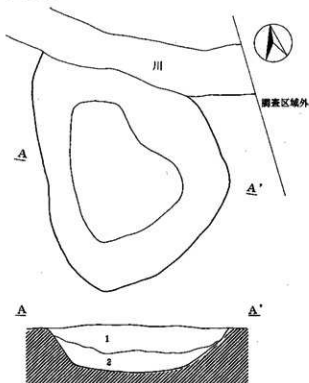


- 1層 黒褐色土 (10YR2/5)
- 2層 暗褐色土 (10YR3/5) ローム粒子少量。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2) 黒褐色土の小ブロック含む。

0 標高 694.47 m (1:80) 2 m

F 1号掘立柱建物址実測図

D 1号土坑

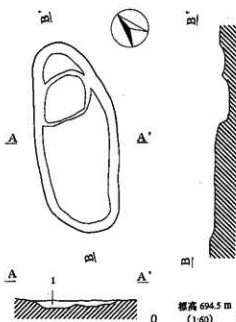


- 1層 黒色土 (10YR2/1) 鉄分を帯状に含む。
- 2層 黒色土 (10YR2/1) 鉄分を帯状に含む。

0 標高 694.5 m (1:60) 1.5 m

D 1号土坑実測図

D 5号土坑



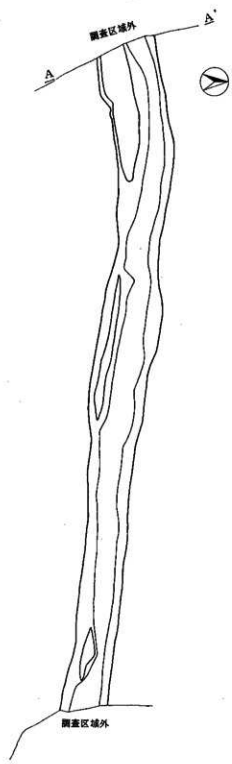
- 1層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒子を微量に含む。

0 標高 694.5 m (1:60) 1.5 m

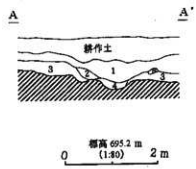
D 5号土坑実測図

第73図 松の木遺跡F 1号掘立柱建物址、D 1号土坑、D 5号土坑実測図

M1号溝状遺構

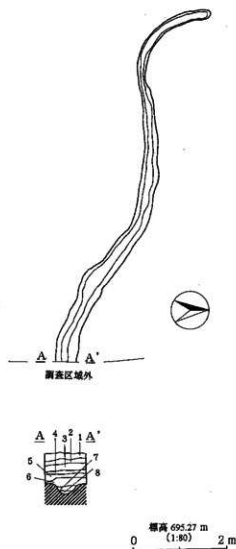


- 1層 黒色土 (10YR2/1) パミス少量混入。
- 2層 黒褐色土 (10YR3/1) 黄褐色砂子 (10YR5/6) が混在。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色ローム砂子 (10YR5/6) が少量混在。
- 4層 黒色土 (10YR1.7/1) 黄褐色ローム砂子 (10YR5/6) が少量混在。



第74図 松の木遺跡M1号溝状遺構実測図

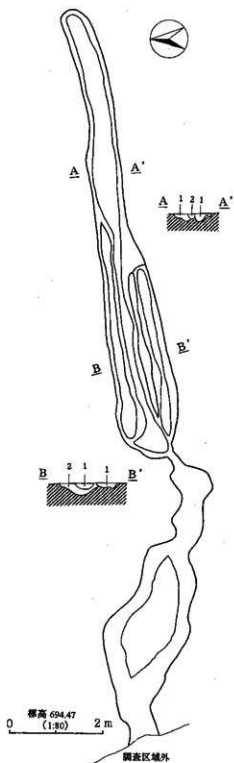
M2号溝状遺構



- 1層 褐色土 (7.5YR4/0) 水田。
- 2層 褐色土 (7.5YR4/6) 水田床土。
- 3層 褐色土 (7.5YR4/0) 砂層。(きめ細かな砂層)
- 4層 褐色土 (7.5YR4/0) 砂質土。(粘質があり水田耕土のよう)
- 5層 褐色土 (7.5YR4/4) 砂層。(粗い砂層)
- 6層 黒色土 (10YR2/1) 粘質強い。
- 7層 黒色土 (7YR2/1) 粘質強い。
- 8層 黒色土 (7YR2/1) 粘質強い。

M2号溝状遺構実測図

M3号溝状遺構

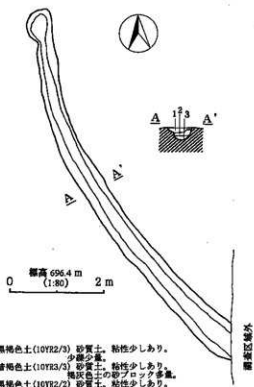


- 1層 黒褐色土 (10YR2/0) D-3粒子、D-4.7°のク少量混入。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/0) D-4.7°のク、N°3混入。

M3号溝状遺構実測図

第75図 松の木遺跡M2号溝状遺構、M3号溝状遺構実測図

M4号溝状遺構



- M4
 1層 黒褐色土(10YR2/3) 砂質土、粘性少しあり、少量。
 2層 暗褐色土(10YR3/3) 砂質土、粘性少しあり、黒褐色土の砂ブロック多量。
 3層 黒褐色土(10YR2/2) 砂質土、粘性少しあり、砂粒含む。

M4号溝状遺構実測図

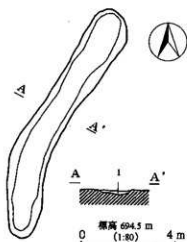
M5号溝状遺構



- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 粘質あり。
 2層 暗褐色土(10YR3/0) 砂(約1)の砂形状。
 3層 暗褐色土(10YR3/0) 砂(約4)の砂形状多。

M5号溝状遺構実測図

M6号溝状遺構



- 1層 黒色土(10YR2/1)
 ローム粒子を露呈に含む。

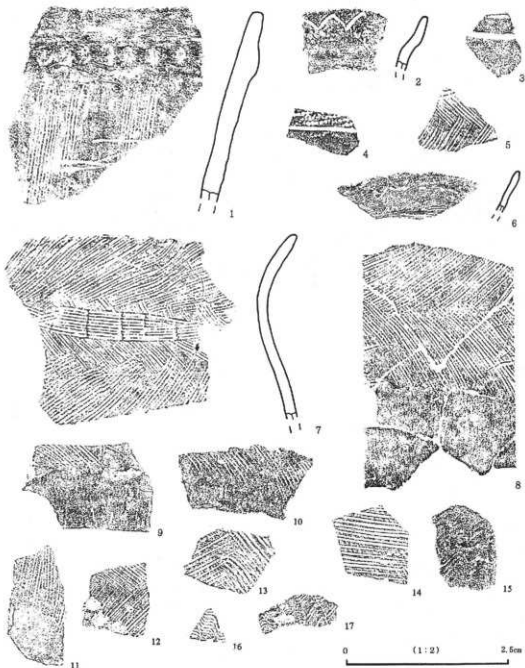
M6号溝状遺構実測図

第76図 松の木遺跡M4号溝状遺構、M5号溝状遺構、M6号溝状遺構実測図

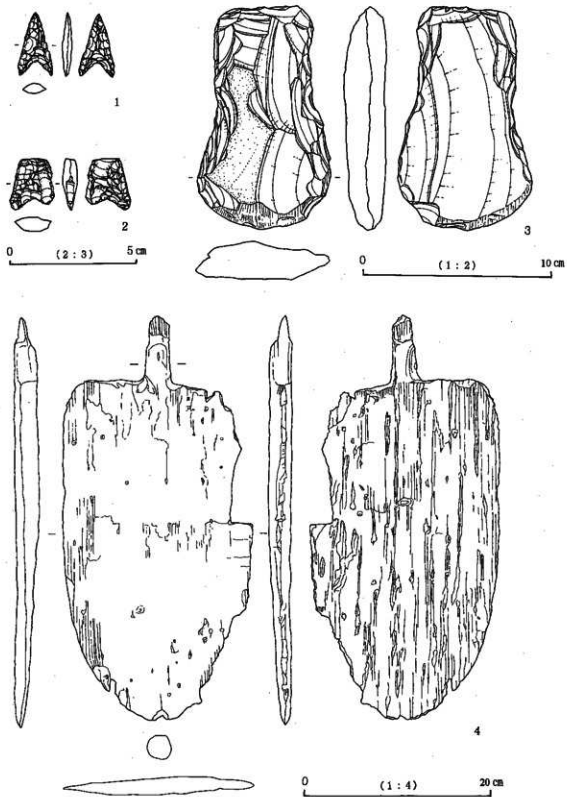
第3節 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ、松の木遺跡Ⅰ・Ⅱの出土遺物

(1) 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ、松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ

1 土器、木器、石器、銭貨、陶磁器



第77図 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ出土土器拓影図



第 78 圖 中長塚遺跡 I・II 出土木器、石器実測図

第4表 中長掘造機Ⅰ・Ⅱ出土しがらみ構築材等一覧表

番号	形状・用途など	規格	寸法 (mm)	番号	形状・用途など	規格	寸法 (mm)
1	板材	サワラ	18×5×275	91	丸木 (加工後)	コナラ属コナラ部属コナラ部	4-7×50
2	板材 (先尖)	コナラ属コナラ部属コナラ部		92	丸木 (加工後)	ヤナギ属	2-3×33
3	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部		93	板材	サワラ	3.5×1.5×27
5	板材 (先尖)	コナラ属コナラ部属コナラ部	7×4.5×98	94	丸木 (加工後)	コナラ属コナラ部属コナラ部	3.5×2.5
6	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	9×4×85	95	丸木 (加工後)	コナラ属コナラ部属コナラ部	2×36
7	板材	サワラ	5×9×36	96	丸木 (加工後)	コナラ属コナラ部属コナラ部	2×36
8				97	丸木	ヤナギ属	3-4×25
9	丸木 (加工後)	ヤナギ属	2.5-3×56	98	丸木 (加工後)	コナラ属コナラ部属コナラ部	2-3.5×30
10	板材	サワラ	8×2×83	100	丸木 (先尖)	コナラ属コナラ部属コナラ部	11×200
11	板材	サワラ	8×2×83	101	丸木 (加工後)	ヤナギ属	9-10×90
12	丸材	コナラ属コナラ部属コナラ部	6×6×26	102	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	8×4.5×6
13	丸材	コナラ属コナラ部属コナラ部	7×7	103	丸木 (加工後)	コナラ属コナラ部属コナラ部	10-12×310
14	丸材	ヤナギ属	4-4.5×36	104	丸木 (加工後)	コナラ属コナラ部属コナラ部	2.5-3×210
15	丸材 (先尖)	ヤナギ属	5×3.5×22	105	丸木 (先尖)	ヤマドリ	7-11×
16	板材 (先尖)		3×1×40	107			
17	板材	ヤナギ属	3.2-1.5×75	108	丸材 (先尖)	コナラ属コナラ部属コナラ部	8×4×38
19	小枝 (加工後)	ヤナギ属	1.2-1.5×75	109			
20	小枝 (加工後)	ヤナギ属	1.2×35	110	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	10×6×266
21	小枝 (加工後)	ヤナギ属	1-1.2×60	111	板材 (先尖)	コナラ属コナラ部属コナラ部	6×3×38
22	小枝 (加工後)	ヤナギ属	1×30	112	丸木	コナラ属コナラ部属コナラ部	10.6×8×80
23				113	丸木	タリ	6.5-9×67
24	小枝 (先尖)	ヤナギ属	1-1.2×40	114	丸木 (加工後)	オニグルミ	15×240
25	小枝 (加工後)	コナラ属コナラ部属コナラ部	1-1.5×27	115	板材 (先尖)	ヤナギ属	10×6×110
26	小枝 (加工後)	ヤナギ属	1.1-1.5×75	116			
27	丸材 (先尖)	榎木属	6×6×34	117			
28	丸木		3-3.5	118	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	5×2.5×26
29	丸材	コナラ属コナラ部属コナラ部	106	119	丸材	コナラ属コナラ部属コナラ部	3.5×3×23
30	丸木 (加工後)	ヤナギ属	2-4×150	121			
31	丸木		121	板材 (先尖)	タリ	11×8×114	
32	丸木 (加工後)	ヤナギ属	2.5-3.5×60	122	板材	タリ	11×4×280
33	丸木 (加工後)		1.5-2.5×75	123			
34				124	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	6×4×15
35	板材	タリ	6×3×87	125			
36	丸木 (加工後)	ヤナギ属	4×35	126	丸木 (加工後)	タリ	6×81
37	丸木 (加工後)	ヤナギ属	1-6×170	127	丸木 (先尖)	5.5×26	
38	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	7×1×35	128	板材	サワラ	6×2×58
39				129	丸木	タリ	4.5×17
40				130	丸木	タリ	5-7×86
41	丸木	コナラ属コナラ部属コナラ部	18×20×200	131	丸木	コナラ属コナラ部属コナラ部	6-7×90
42				132	丸木 (先尖)		
43	丸木 (先尖)	ヤナギ属	3.5-4×78	133	丸材	コナラ属コナラ部属コナラ部	8×7×85
44	丸木	ヤナギ属	4-4×27	134	丸材	コナラ属コナラ部属コナラ部	5×3.5×50
45	丸木 (先尖)	ヤナギ属	3×75	135	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	3.5-4×60
46				136	丸木 (加工後)	ヤナギ属	2×17
47	丸木	ヤナギ属	3×51	137	丸木 (加工後)	タリ	2×30
48				138	丸木 (先尖)		
49	板材	タリ	6.8×8×19	139	板材	14×2×52	
50	丸木 (加工後)	高麗楡	2.5-4×11	140	丸材	タリ	10×7×9
51	丸木 (加工後)		1-4.5×12	141	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	9×7.5×79
52	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	8×1.5×25	142	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	14×2×64
53	丸木		1.5-2×27	143	丸木	コナラ属コナラ部属コナラ部	6-11×200
54	小枝 (先尖)	ヤナギ属	1×15	144	板材	タロベ	4×2×3
55				145			
57	丸木	コナラ属コナラ部属コナラ部	7-10×22	146			
58	板材	タリ	6×2×66	147	丸木	コナラ属コナラ部属コナラ部	6-8×54
59	丸木 (加工後)	ヤナギ属	1.5-2.5×67	148	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	8×3×232
60	丸材	コナラ属コナラ部属コナラ部	3×31	149	板材	サワラ	9.5×1.5×63
61	板材	タリ	8×2.5×19	151	板材	サワラ	7×2×30
62				152			
63				153			
64	丸木	ヤナギ属	2-3×100	154	板材 (先尖)	コナラ属コナラ部属コナラ部	8×5×121
65	丸木 (加工後)		2-3×179	155	板材	タロベ	
66				156	丸木 (加工後)	モモ	3-3.5×165
67	丸木 (加工後)	コナラ属コナラ部属コナラ部	7×38	157	丸木 (加工後)	モモ	3.5×35
68	丸木 (加工後)	コナラ属コナラ部属コナラ部	2×50	158			
69	丸木 (加工後)		2-4.5×33	159	丸木 (加工後)	コナラ属コナラ部属コナラ部	6-8×90
70	丸木 (加工後)	ヤナギ属	3×19	160	丸木 (加工後)	コナラ属コナラ部属コナラ部	3-4×56
71				161			
72				162			
73	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	11×9×115	163	丸木 (先尖)	コナラ属コナラ部属コナラ部	11×
74				164	丸木 (加工後)	コナラ属コナラ部属コナラ部	2-4×116
75				165	丸木 (加工後)	コナラ属コナラ部属コナラ部	3.5-8×18
76	丸木 (加工後)		3-4×88	166	丸木	モミ	
77				167	丸木	コナラ属コナラ部属コナラ部	
78	丸木 (加工後)	ヤナギ属	3.5×18	168	丸材	コナラ属コナラ部属コナラ部	4×2.5×41
79				169	丸木 (先尖)		1.5-2×20
80	丸材 (先尖)	コナラ属コナラ部属コナラ部	6×5×69	170			
81	板材 (先尖)	タリ	8×3×110	171	丸木 (先尖)	コナラ属コナラ部属コナラ部	5×50
82	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	6×18	172			
83	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	6×2×18	173	丸木	コナラ属コナラ部属コナラ部	
84	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	6×1.2×34	174	板材	コナラ属コナラ部属コナラ部	2×32
85				175			
86	丸木 (加工後)		10×5	176	丸木 (先尖)	コナラ属コナラ部属コナラ部	2-4×68
87	丸材	サワラ	20×2.4×42.8	177	丸木	コナラ属コナラ部属コナラ部	8-10×143
88	丸材 (先尖)	サワラ	3×3×22	178	板材	4×5×43	
89	丸材		2×33	179	板材	5×1.5×20	
90	丸材		5.5×1.2×41	180	板材	3×0.8×30	

第5表 中長塚遺跡I出土陶磁器類一覧表

番号	出土遺構	種類	時期
1	水田址A	灰輪磁皿	平安
2	//	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀
3	//	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀
4	//	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀末~14世紀前半
5	//	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀
6	//	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀
7	//	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀
8	//	青磁碗(中国)	中世
9	//	青磁(中国)	中世
10	//	青磁鉢(中国)	15世紀(?)
11	//	山茶碗系裡ね鉢	13世紀~14世紀前半
12	//	山茶碗系裡ね鉢	13世紀~14世紀前半
13	//	山茶碗系裡ね鉢	13世紀~14世紀前半
14	//	山茶碗系裡ね鉢	13世紀~14世紀前半
15	//	山茶碗系裡ね鉢	13世紀後半~14世紀前半
16	//	海苔鉢	12世紀後半~13世紀前半
17	//	中瀬川唐か壺	13世紀後半~14世紀
18	//	常滑(?) 壺	中世
19	//	常滑唐か壺	中世
20	//	常滑唐か壺	中世
21	//	瓦質火鉢	14世紀後半~15世紀
22	//	瓦質火鉢	14世紀後半~15世紀
23	//	古瀬戸菓子(中期様式I・II期)	13世紀末~14世紀初頭
24	//	古瀬戸水注(?) (中期様式I・II期)	13世紀末~14世紀初頭
25	//	古瀬戸菓子(前期~中期様式)	13世紀~14世紀前半
26	//	古瀬戸鉢(後期様式I期)	14世紀後半
27	//	古瀬戸鉢(後期様式I期)	14世紀後半
28	//	古瀬戸平碗(大型)(後期様式I~II期)	14世紀後半~15世紀初頭
29	//	古瀬戸平碗(?)	14世紀後半~15世紀前半(?)
30	//	古瀬戸平碗(?)	14世紀後半~15世紀
31	//	古瀬戸平碗	14世紀後半~15世紀
32	//	古瀬戸天目茶碗	14世紀後半~15世紀
33	//	古瀬戸碗(後期様式II~IV期)	15世紀
34	//	古瀬戸鉢袖小皿	15世紀
35	//	瀬戸美濃瀬房志野皿	17世紀前半
36	//	瀬戸美濃瀬房志野皿	17世紀
37	//	瀬戸美濃瀬房志野磁部皿	17世紀前半
38	//	瀬戸美濃瀬房志野磁部皿	17世紀前半
39	//	瀬戸美濃瀬房志野磁部皿	17世紀前半
40	//	瀬戸美濃瀬房灰輪碗	18世紀
41	//	瀬戸美濃瀬房灰輪碗	18世紀
42	//	瀬戸美濃瀬房碗	18世紀
43	//	瀬戸美濃瀬房德利	18世紀後半~19世紀前半
44	//	瀬戸美濃瀬房攪り鉢(円盤)	18世紀後半
45	//	瀬戸美濃瀬房攪り鉢	18世紀後半
46	//	瀬戸美濃瀬房攪り鉢	18世紀後半
47	//	瀬戸美濃瀬房灰輪碗	近世
48	//	瀬戸美濃瀬房灰輪碗	近世
49	//	瀬戸美濃瀬房灰輪碗	近世
50	//	瀬戸美濃瀬房碗	近世
51	//	瀬戸美濃瀬房碗	近世
52	//	瀬戸美濃瀬房皿(?)	近世
53	//	瀬戸美濃瀬房型打皿	近世
54	//	瀬戸美濃瀬房鉄輪碗	近世
55	//	瀬戸美濃瀬房鉄輪碗	近世
56	//	瀬戸美濃瀬房鉄輪碗	近世
57	//	瀬戸美濃瀬房鉄輪碗	近世
58	//	瀬戸美濃瀬房鉄輪碗	近世
59	//	瀬戸美濃瀬房鉄輪碗	近世
60	//	瀬戸美濃瀬房鉄輪碗	近世
61	//	瀬戸美濃瀬房攪り鉢	近世
62	//	瀬戸美濃瀬房攪り鉢	近世
63	//	瀬戸美濃瀬房攪り鉢	近世
64	//	瀬戸美濃白磁	19世紀
65	//	瀬戸美濃染付(?)	19世紀
66	//	瀬戸美濃上給付碗	19世紀中頃
67	//	瀬戸美濃染付(?) 猪口(?)	19世紀
68	//	瀬戸美濃瀬房	近世
69	//	瀬戸美濃瀬房	近世
70	//	瀬戸美濃蒸	不明

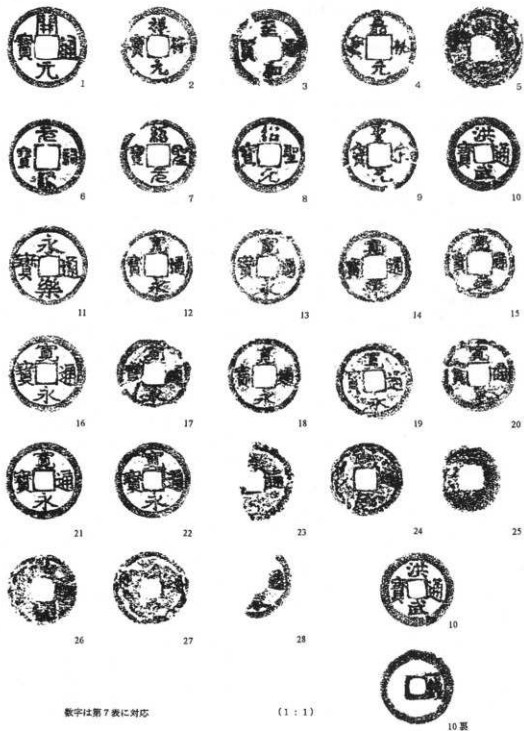
番号	出土遺構	種類	時期
71	水田址A	伊万里甌(Ⅲ~Ⅳ期)	17世紀後半~18世紀
72	〃	伊万里甌(V期)	18世紀
73	〃	伊万里甌(V期)	18世紀
74	〃	伊万里甌(V期)	18世紀前半
75	〃	伊万里Ⅳ期陶胎甌	18世紀後半
76	〃	伊万里甌	近世
77	〃	伊万里一輪釜し(?)	近世
78	〃	伊万里甌	近世
80	〃	伊万里甌	近世
81	〃	伊万里甌	近世
82	〃	伊万里甌	近世
83	〃	伊万里(?)甌類(?)	近世
84	〃	唐津三島手鉢	18世紀
85	〃	肥前産陶器甌	17世紀後半~18世紀前半
86	〃	肥前産陶器甌	近世
87	〃	肥前産陶器甌	近世
88	〃	肥前産陶器甌	近世
89	〃	肥前産陶器甌	近世
90	〃	肥前産陶器甌	近世
91	〃	産地不明反輪甌	近世
92	〃	産地不明反輪甌	近世
93	〃	産地不明反輪甌	近世
94	〃	産地不明反輪甌	近世
95	〃	産地不明反輪甌	近世
96	〃	産地不明灯明皿	18世紀後半~19世紀前半
97	〃	在産火鉢類(?)	近世(?)

第6表 松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ出土陶磁器類一覧表

番号	出土遺構	種類	時期
1	水田面址	白磁甌(V類)	11世紀後半~12世紀前半
2	表土	龍泉窯系陶花文青磁甌	12世紀後半
3	お-45	龍泉窯系蓮弁文青磁甌	13世紀
4	あ-37	龍泉窯系蓮弁文青磁甌	13世紀
5	か-40	龍泉窯系蓮弁文青磁甌	13世紀
6	え-47	龍泉窯系蓮弁文青磁甌	13世紀~14世紀前半
7	き-12	青磁甌	15世紀前半
8	き-12	瓦質火鉢(?)	中世
9	H9検出面	常滑壺か甕	中世
10	あ-37	常滑壺か甕	中世
11	水田址	瀬戸美濃産房灰輪甌	近世
12	お-45	瀬戸美濃産房灰輪甌	近世
13	あ-39	瀬戸美濃産房揉り鉢	近世
14	か-39	瀬戸美濃	不明
15	い-44	伊万里染付甌(V期)	18世紀末~19世紀前半
16	い-43	瀬戸美濃土絵付	19世紀中頃以降

第7表 中長塚遺跡I・松の木遺跡I出土銭貨一覧表

挿図 番号	銭名(字体)	初鑄年(西暦)	時代	法 量			背文	出土遺構
				銭径	内径	重さ		
1	開元通宝(真)	武德四年(621)	唐	20.5	20.1	3.36		№23(水田址A)
2	祥符元宝(真)	大中祥符元年(1008)	北宋	20.4	10.95	2.02		№10(水田址A)
3	至和通宝(真)	至和元年(1054)	北宋	20.45				№24(水田址A)
4	嘉祐元宝(真)	嘉祐元年(1056)	北宋	20.35		2.08		№17(水田址A)
5	元祐通宝(行)	哲宗元祐元年(1086)	北宋	20.5		2.13		№29(水田址A)
6	元祐通宝(篆)	哲宗元祐元年(1086)	北宋	20.4		3.02		松の木遺跡水田址
7	紹聖元宝(篆)	紹聖元年(1094)	北宋	20.3	10.9	2.07		№22(水田址A)
8	紹聖元宝(行)	紹聖元年(1094)	北宋	20.4	10.9	2.61		№28(水田址A)
9	聖宗元宝(行)	建中靖国元年(1101)	北宋			2.12		№18(水田址A)
10	洪武通宝(真)	太祖洪武元年(1368)	明	20.3	10.8	3.41	一銭	№9(水田址A)
11	永楽通宝(真)	成祖永楽六年(1408)	明	20.5	20.1	2.70		№26(水田址A)
12	寛永通宝			20.25	10.95	1.28		№1(水田址A)
13	寛永通宝			20.4	20.0	1.69		№2(水田址A)
14	寛永通宝			20.35	10.9	2.25		№3(水田址A)
15	寛永通宝			20.25		1.54		№4(水田址A)
16	寛永通宝			20.45	20.0	3.08		№5(水田址A)
17	寛永通宝					1.01		№11(水田址A)
18	寛永通宝			20.3	10.95	1.53		№13(水田址A)
19	寛永通宝			20.4	10.95	2.64		№15(水田址A)
20	寛永通宝			20.3		1.32		№16(水田址A)
21	寛永通宝			20.4	10.95	2.41		№19(水田址A)
22	寛永通宝			20.4	10.9	1.88		№20(水田址A)
23	寛永通宝							表探(中長塚遺跡)
24	寛永通宝			20.3		2.32		松の木遺跡I
25	無文銭					0.80		№27(水田址A)
26	不明			20.2		1.84		№8(水田址A)
27	不明			20.3		1.57		№12(水田址A)
28	不明							№14(水田址A)



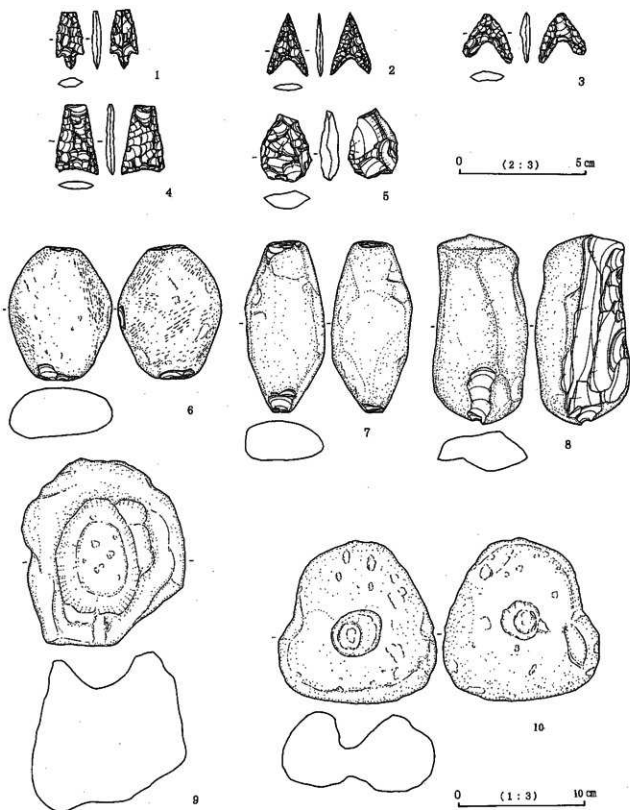
数字は第7表に対応

(1 : 1)

第79図 中長塚遺跡Ⅰ・松の木遺跡Ⅰ出土銭貨拓影図

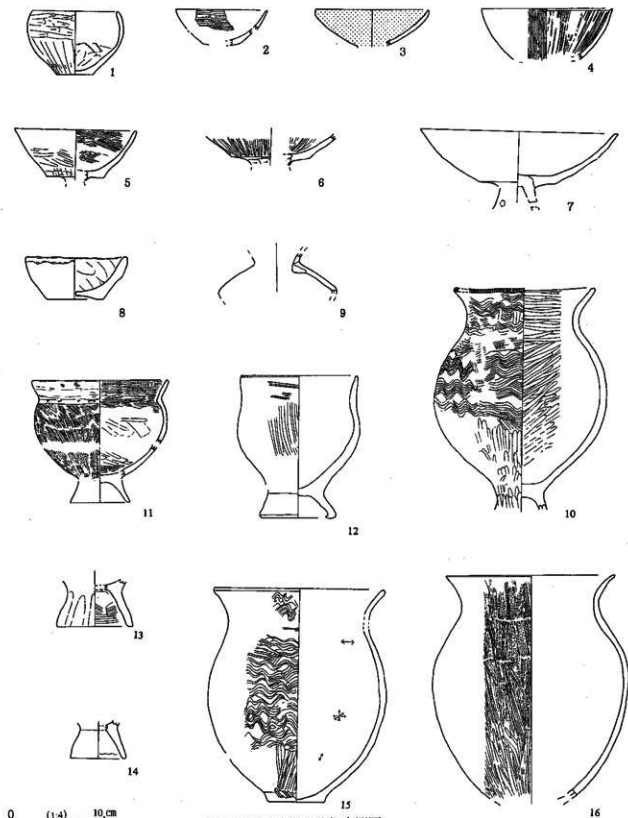
(2) 松の木遺跡 I・II

1 土器、石器



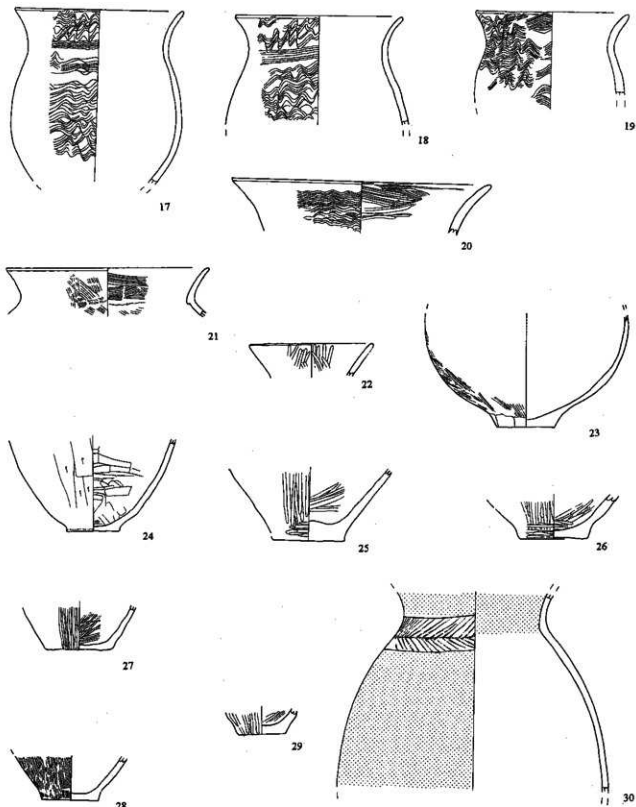
第80図 松の木遺跡 I・II出土遺物実測図

H 1 号住居址



H 1 号住居址出土遺物実測図
 第 81 図 松の木遺跡 I H 1 号住居址出土遺物実測図

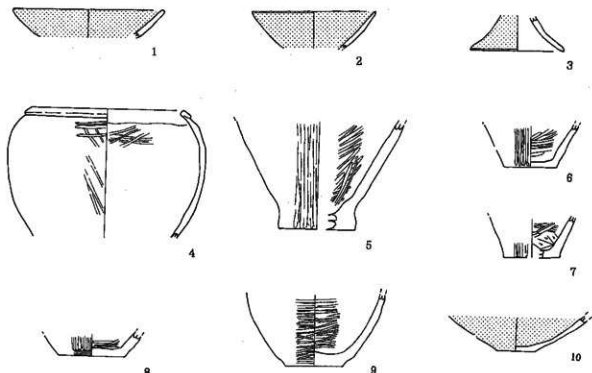
H 1 号住居址



H 1 号住居址出土遺物実測図
 第 82 図 松の木遺跡 I H 1 号住居址出土遺物実測図

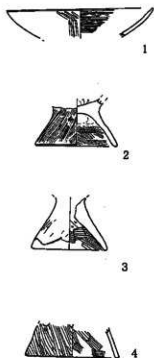
0 (1:4) 10cm

H 2号住居址



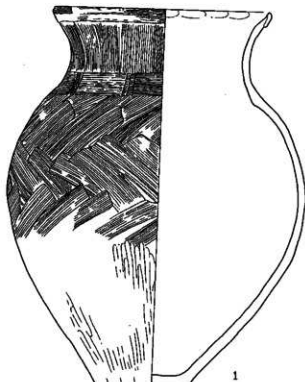
H 2号住居址出土遺物実測図

H 3号住居址



H 3号住居址出土遺物実測図

H 4号住居址

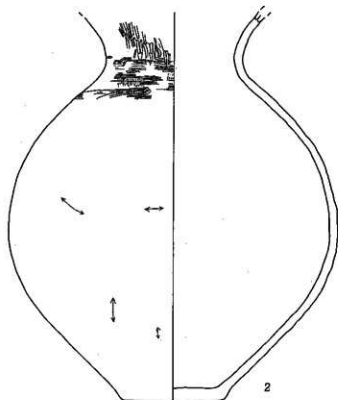


H 4号住居址出土遺物実測図

第 83 図 松の木遺跡 I H 2号・H 3号・H 4号住居址出土遺物実測図

0 (1:4) 10cm

H 4 号住居址

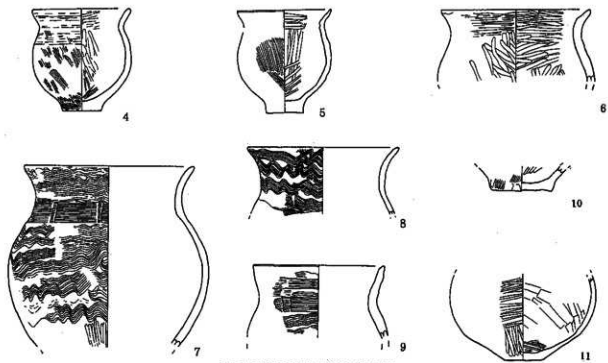


H 4 号住居址出土遺物実測図

H 5 号住居址



H 5 号住居址

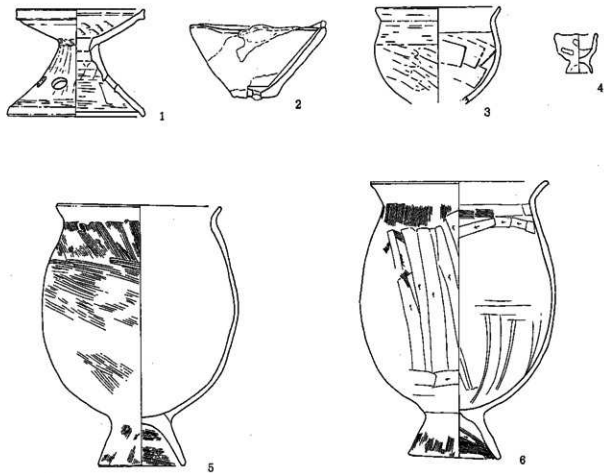


H 5 号住居址出土遺物実測図

第 84 図 松の木遺跡 I H 4 号・H 5 号住居址出土遺物実測図

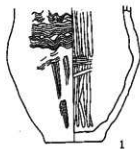
0 (1:4) 10 cm

H 6号住居址



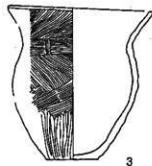
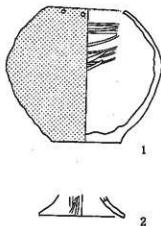
H 6号住居址出土遺物実測図

H 7号住居址



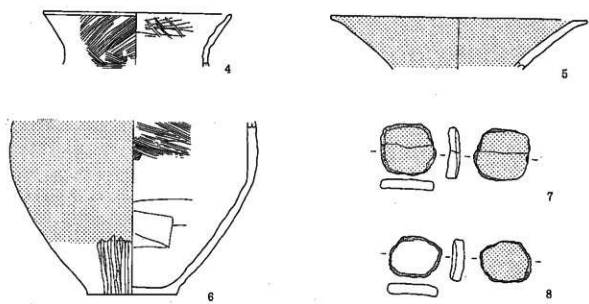
H 7号住居址出土遺物実測図

H 8号住居址

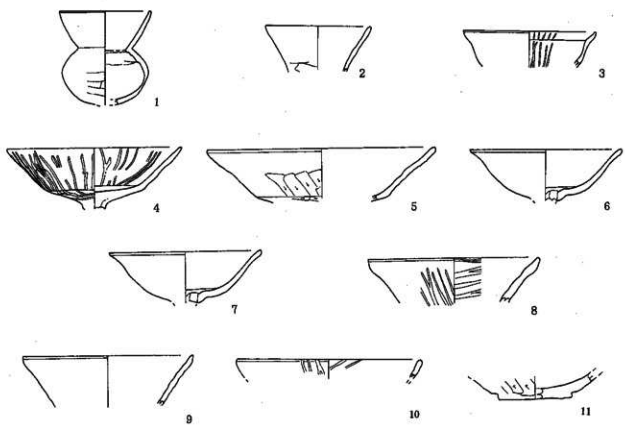


0 (1:4) 10cm

第85図 松の木遺跡IH6号、松の木遺跡IIH7号・H8号住居址出土遺物実測図



H 9号住居址

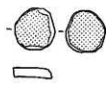


0 (1:4) 10cm

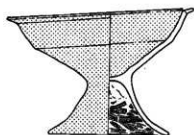
第 86 図 松の木遺跡ⅡH 8号・H 9号住居址出土遺物実測図

H 10 号住居址

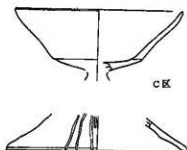
M5号溝状遺構



グリット



B-11-9



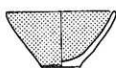
B-21-10.12 層



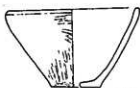
B-1-50



B-1-49



B-2-9



B-21-8



B-11-9



B-2-12



B-1-49



B-2-50



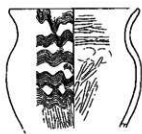
B-21-47 5-47



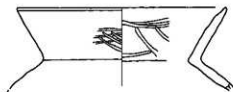
B-2-46 21-46



B-11-45



B-3-11 2-12 21-12



B-21-10



B-1-50



B-1-49



B-2-46

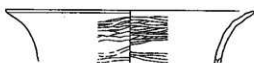
0 (1:4) 10cm

第 87 図 松の木遺跡Ⅱ H 10 号住居址、M 5 号溝状遺構、グリッド出土遺物実測図

グリッド



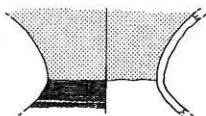
B-こ-50



B-し-55



B-こ-48



B-く-49



B-か-10.12 層



B-う-48



B-う-47



B-う-49



B-か-10.12 層



B-う-49



B-お-46



B-う-47



B-う-47



B-か-10.12 層



B-か-10.12 層



B区



A区水田跡



A区水田跡

0 (1:4) 10 cm

第 88 図 松の木遺跡 I・IIグリッド出土遺物実測図

9 H9号住居址

本住居址は、かへく-8・9グリッド、全体層序X層上面から検出された。M5号溝状遺構に南壁東壁付近を破壊される。規模は、南北6.2m 東西6.46mのやや東西に長いものの隅丸方形を呈し、壁高は3～23cmを測り、主軸方位はN-30°-Wを示す。覆土は3層に分層された。床面はX層を堅く敲き締めて構築されている。堀方はない。

ピットは8個検出され、P1～P3が主柱穴である。深さは35～54cmと深く、方形に配される。南西壁下のP6内にはさらに2個のピットがあり、入り口施設に関したものであろうか。深さは西側が53.5cm、東側が27cmを測る。P4は36cm、P5は43cm、P8は12cmの深さである。床面上に炭化材がみられ、覆土1層・2層に焼土ブロックや炭が多量にみられることから、焼失した住居と思える。

炉は北側主柱穴のP1とP2の中央に位置する。地床炉である。

遺物は、甕(第86図11)、壺(8・9)、高坏(4～7)、小形丸底壺(1・2)等が図示できた。

古墳時代中期、5世紀中葉に位置づけられよう。

10 H10号住居址

本住居址は、お-6グリッド、全体層序VII層から検出された。規模は、南北推定(4.0m)を測るが大半は、調査対象地外にある。壁高は18～35cmを測り、長軸方位は推定N-25°-Wを示す。覆土は3層に分層された。床面上に炭化材がみられ、覆土1層からは焼土ブロックや炭が多量にみられることから、焼失した住居と思える。

遺物は、壺と思われる第87図1が図示できたのみである。

(2) 掘立柱建物址

1 F1号掘立柱建物址

い・う-39・40グリッドから検出された。1間×1間の東西棟で、東西4.8m 南北3.2mの長方形で、長軸方位はN-88°-Eを示す。柱穴は円形を呈し、径46cm～104cm、深さ23cm～29cmを測る。

(3) 土坑

1 D1号土坑

あ-38・39グリッドから検出された。M2号溝状遺構に北を破壊される。長径推定2.8m 短径1.84m 深さ36～43cmを測る。

2 D5号土坑

い・う-40グリッドから検出された。M2号溝状遺構に北を破壊される。長径推定2.06m 短径0.88m 深さ3～8cmを測る。

(4) 溝状遺構

1 M1号溝状遺構

いへか-49・50グリッドから検出され、東西に伸びる。幅90～130cm 深さ21.5～42.5cmを測る。松の木遺跡IIIの調査で、東西70mを越える前方後円の形をしたものであることが判明した。

2 M2号溝状遺構

あ・い-38グリッドから検出され、東西に伸びる。幅14～50cm 深さ3～17.5cmを測る。

3 M3号溝状遺構

うへき-39グリッドから検出され、東西に伸びる。幅60～180cm 深さ1～32.5cmを測る。自然流路のようであるが砂が少ない。

4 M4号溝状遺構

お・か-4・5グリッドから検出され、南北に伸びる。幅34～72cm 深さ5～24cmを測る。覆土から自然流路とみえる。

5 M5号溝状遺構

お・か-4～12グリッドから検出され方形の区画溝を思わせるが大半は東の調査区外に伸びる。幅50～150cm 深さ6～76.5cmを測る。H8～H9号住居址を破壊する。底面には砂の堆積がみえる。

6 M6号溝状遺構

う-39・40グリッドから検出され、南北に伸びる。幅64～84cm、深さ2～10cmを測る。

はじめに

中長塚遺跡・松ノ木遺跡から出土した種実ならびに木材の種類を知り、軽石流堆積時の古植生や弥生時代以降の用材や植物利用に関する情報を得るために、同定を実施した。

1. 中長塚遺跡の樹種同定

1. 試料

試料は、出土した弥生時代以降の木製品類115点と、軽石流堆積物中（小竃第1か第2か不明）から出土した自然木5点である。軽石流堆積物中の自然木は、乾燥した状態であった。各試料の詳細は、樹種同定結果とともに表1に示す。

2. 方法

木製品類については、各試料の破損部などを利用して5mm角程度の木片を採取した。また、接合する場合には、接合面から1cm角程度の木片を採取した。軽石流堆積物中の自然木は、1cm角程度の木片を採取した後、蒸留水に浸して水分を浸透させた。

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製した。軽石流堆積物中の自然木については、切片をグリセリン水溶液で煮沸し、内部の気泡を除去した。各試料の切片をガム・クロラール（飽水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製した。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。試料番号50は、道管を有することから広葉樹類であるが、保存状態が悪く、種類の同定には至らなかった。また、試料番号27に付着していた植物片は、組織の特徴から草本類と考えられる。その他の試料は、針葉樹5種類（マツ属単線管束亜属・モミ属・トウヒ属・サワラ・クロベ）と広葉樹7種類（オニグルミ・ヤナギ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・ヤマグワ・モモ）に同定された。各種類の「主な解剖学的特徴を以下に記す。

・マツ属単線管束亜属 (*Pinus subgen. Haploxylo*) マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。分野壁孔は意状となり、放射仮道管内壁は滑らか。放射組織は単列、1~15細胞高。

・モミ属 (*Abies*) マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。傷害樹脂道が認められる試料がある。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で1~4個。放射組織は単列、1~20細胞高。

・トウヒ属 (*Picea*) マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。放射組織の細胞壁は厚く、じゅず状末端壁が認められる。放射仮道管の有縁壁孔のフチは主としてトウヒ型。分野壁孔はトウヒ型で、1分野に3~6個。放射組織は単列、1~20細胞高。

・サワラ (*Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はスギ型~ヒノキ型で、1分野に1~3個。放射組織は単列、1~15細胞高。

・クロベ (*Tsuga standishii* (Gord.) Carriere) ヒノキ科クロベ属

仮道管の早材部から晩材部への移行は急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はスギ型~ヒノキ型で、1分野に1~4個。放射組織は単列、1~15細胞高。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

散孔材で、道管は比較的大径。単独または2~4個が放射方向に複合して散在し、年輪界付近でやや急に管径を減少させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性~異性型、1~4細胞幅、1~40細胞高。

・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または2~3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1~15細胞高。

番号	形状・用途など	樹種	番号	形状・用途	樹種
A	軟石炭塊植物(自然木)	マツ属 単葉常葉属	93	自然木	サワラ
B	軟石炭塊植物(自然木)	トウヒ属	94	自然木	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
C	軟石炭塊植物(自然木)	トウヒ属	95	自然木	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節
D	軟石炭塊植物(自然木)	モミ属	96	自然木	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節
E	軟石炭塊植物(自然木)	マツ属 単葉常葉属	97	自然木	クロベ
1	板材	サワラ	98	丸木	ヤナギ属
2	板材(先尖)	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	99	丸木(加工無)	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節
3	板材	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	100	丸木(先尖)	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
4	板材(先尖)	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	101	丸木(加工無)	ヤナギ属
5	板材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	102	板材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
6	板材	サワラ	103	丸木(加工無)	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節
10	丸木(加工無)	ヤナギ属	104	丸木(加工無)	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節
11	板材	サワラ	105	丸木(先尖)	ヤマグワ
13	角材	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	108	角材(先尖)	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
15	角材(先尖)	ヤナギ属	110	板材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
17	角材	ヤナギ属	111	板材(先尖)	ヤマグワ
19	小枝(加工無)	ヤナギ属	112	板材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
20	小枝(加工無)	ヤナギ属	113	丸木	クリ
21	小枝(加工無)	ヤナギ属	114	丸木(加工無)	オニグルミ
22	小枝(加工無)	ヤナギ属	115	丸木(先尖)	モミ属
24	小枝(先尖)	ヤナギ属	118	板材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
25	小枝(加工無)	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	119	角材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
26	小枝(加工無)	ヤナギ属	121	板材(先尖)	クリ
27付表		原木類	122	角材	クリ
29	角材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	124	板材	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節
30	丸木(加工無)	ヤナギ属	126	丸木(加工無)	クリ
32	丸木(加工無)	ヤナギ属	129	板材	サワラ
35	板材	クリ	131	丸木	クリ
36	丸木(加工無)	ヤナギ属	132	丸木(先尖)	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節
37	丸木(加工無)	ヤナギ属	134	角材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
38	板材	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	135	板材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
41	丸木	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	136	丸木(加工無)	ヤナギ属
43	丸木(先尖)	ヤナギ属	137	丸木(加工無)	クリ
44	丸木	ヤナギ属	140	角材	クリ
45	丸木(先尖)	ヤナギ属	141	板材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
47	丸木	ヤナギ属	142	板材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
49	板材	クリ	143	丸木	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節
50	丸木(加工無)	広葉樹	144	板材	クロベ
52	板材	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	147	丸木	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
54	小枝(先尖)	ヤナギ属	148	板材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
56	丸木	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	150	板材	サワラ
58	板材	クリ	151	板材	サワラ
59	丸木(加工無)	ヤナギ属	154	板材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
60	角材	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	155	板材	クロベ
61	板材	クリ	156	丸木(加工無)	モモ
64	丸木	ヤナギ属	157	丸木(加工無)	モモ
67	丸木(加工無)	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	159	丸木(加工無)	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
68	丸木(加工無)	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	160	丸木(加工無)	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節
70	丸木(加工無)	ヤナギ属	163	丸木(先尖)	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
73	板材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	164	丸木(加工無)	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節
78	丸木(加工無)	ヤナギ属	165	丸木(加工無)	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
80	角材(先尖)	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	166	丸木	モミ属
81	板材(先尖)	クリ	167	丸木	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
82	板材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	168	角材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
83	板材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	171	丸木(先尖)	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
84	板材	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	173	丸木	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節
87	板材	ヤマグワ	174	板材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
88	角材(先尖)	サワラ	176	丸木(先尖)	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
91	丸木(加工無)	コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	177	丸木	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節
92	丸木(加工無)	ヤナギ属	180	板材	コナラ属 コナラ亜属 コナラ節

- ・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris*) プナ科
環孔材で、孔眼部は1~3列、孔眼外で急激に管径を減じたのち漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものも複合放射組織とがある。
- ・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus*) プナ科
環孔材で、孔眼部は1~2列、孔眼外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものも複合放射組織とがある。
- ・クリ (*Castanea crenata* Sieh. et Zucc.) プナ科クリ属
環孔材で、孔眼部は1~2列、孔眼外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔孔を有し、壁孔は交互

状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。

・ヤマガワ (*Morus australis* Poiret)
クワ科クワ属

環孔材で孔間部は1~5列、晩材部への移行は緩やかで、年輪界へ向かって管径を漸減させ、のち塊状に複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性II~III型、1~6細胞幅、1~50細胞高で、しばしば結晶を含む。

・モモ (*Prunus salicina* Lindley)

バラ科サクラ属

環孔性散孔材で、年輪のはじめにやや大型の道管が3~4列配列し、やや急激に管径を減じた後、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管の壁厚は中層、横断面では角張った楕円形、単独または2~5個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性III型、1~6細胞幅、1~70細胞高。

4. 考察

(1) 軽石流期の古植生

軽石流堆積物 (小減第1か第2のどちらかと思われる) 中の自然木は、いずれもマツ科針葉樹で、トウヒ属、単維管束亜属 (ゴヨウマツ類)、モミ属が認められた。軽石流期の埋没樹については、市内の奇山遺跡でも出土しており、トウヒ属が確認されている。また、軽井沢町では、軽石流期の降下テフラに覆われた泥炭層および埋没林の調査が行われており、トウヒ属 (バラモミ節)、単維管束亜属 (ハイマツ) を主とした植生が推定されている (辻ほか, 1983; 那須・百原, 1998)。これらの結果から、軽石流に覆われる以前の本地域には、これらの針葉樹を主とした植生が見られたことが推定される。

(2) 木製品類の用材

弥生時代以降の木製品類は、板材、角材、小枝、用途不明に分類される。それぞれの用途では、先端が尖るもの、加工痕のあるものと無いもの等の分類がされている。これらの木製品類には、針葉樹3種類と広葉樹7種類が認められた。各用途別の種類構成を表2に示す。種類別に見ると、針葉樹材では、一部を除いてそのほとんどが板材に利用されている。針葉樹材は一般に木理が直で板状の加工が容易であることから、針葉樹材の材質を考慮した用材選択が行われたものと考えられる。一方、広葉樹材では、ヤナギ属、クヌギ節、コナラ節、クリが比較的多く見られる。ヤナギ属を除く各種類は、強度に優れた材質を有し、クリでは耐朽性も高い。そのため、強度や耐朽性を考慮した用材が推定される。用途別にみると、ヤナギ属とクヌギ節は丸木、コナラ節とクリは板材に比較的多く見られる。このことから、用途によって利用される種類が異なっていた可能性がある。佐久盆地および周辺地域では、これまでも各時代の住居構築材などについて樹種同定が行われている (ブリノ・サーヴェイ株式会社, 1988a, 1988b, 1989a, 1989b, 1991, 1992a, 1993, 1994a, 1994b, 1994c, 1995; 藤根, 1994; 高橋・辻本, 1998, 1999; 高橋, 2000a, 2000b)。その結果を見ると、クヌギ節とコナラ節は、弥生時代以降大量に利用されているが、その利用方法に大きな違いは認められない。そのため、今回の結果では、意図的に用材が異なっていたのかどうか、詳細は不明である。

板材に見られたヤマガワは、その形状から櫓の身と考えられる。櫓・櫓類については、県内の石川糸里遺跡で多くの樹種同定が行われている (能城・鈴木, 1997)。しかし、その結果ではヤマガワは認められていない。また、櫓・櫓類については、県外でも多くの地域で樹種同定が行われているが、同様にヤマガワの出土例は報告されていない (鳥地・伊東, 1988)。櫓の民俗事例では、耕地の種類、目的等に応じて形状等が異なる (雛形, 1979)。これと同様に、耕地の種類や目的に応じて櫓の材質を変え、本地域ではその一つとしてヤマガワが用いられていた可能性がある。しかし、現時点で詳細は不明である。

丸木材にはモモが2点認められている。モモは中国から渡来した栽培植物とされる。市内では、聖徳遺跡や聖原遺跡などで出土例が報告されており、親告されていたことが推定される。また、モモの木材は聖原遺跡の住居跡からも出土しており、住居構築材として利用されていたことが明らかとなっている。また、屋代遺跡群では、モモの炭化観察的な遺構から出土していることから (辻ほか, 1999)、木材の利用についても信仰などが関係している可能性が指摘されている (高橋, 2000b)。本遺跡でも、何らかの用材としてモモが用いられていたことが推定され、その背景に信仰などが関係している可能性もある。

表2 用途別種類構成

層位	形状・用途	単維管束亜属											合 計			
		自然木	モミ属	トウヒ属	サワラ	クロベ	オニグルミ	ヤナギ属	クヌギ節	コナラ節	クリ	ヤマガワ		広葉樹	草本類	
軽石流堆積物	自然木	2	1	2	7	2		1	5	15	5					33
板材	先尖								2	2	1					5
	角材								2	5						7
	先尖				1											1
	小枝								5	1	2					8
	加工痕無															3
	先尖															2
	加工痕			1					4	2	5	2				14
	加工痕無															1
	不明								1	10	10	2	2	2	1	28
	先尖									3	1	4				10
不明															2	
合 計		2	3	2	8	3	1	26	21	35	12	3	2	1	120	

II. 松ノ木遺跡の種実同定

1. 試料

試料は、中世の遺構などから出土した 19 点である。試料については、結果とあわせて表3に示す。

2. 分析方法

双眼実体顕微鏡下でその形態的特長から種類を同定する。

3. 結果

結果を表3に示す。なお、表中で「破」としたものは、微細な破片であることを意味する。以下に検出された種類の形態的特長を記す。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp.

sieboldiana (Maxim) Kitamura) クルミ科

炭化した核の破片が検出された。灰色で木質。非常に堅い。大きさは1 cm 程度で、表面は荒いしわ状となる。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラン属

炭化した核の破片が検出された。褐色～黒褐色で大きさは1 cm 程度。木質で堅く、表面は不規則な線状のくぼみがあり、全体としてあらいしわ状に見える。

・サンショウ (*Zanthoxylum piperitum* DC.) ミカン科サンショウ属

炭化した核が検出された。黒褐色で楕円形。大きさは2 mm 程度。表面は堅く、浅い不規則な網目模様が見られる。

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

炭化した胚乳が検出された。大きさは4 mm 程度。楕円形であるが、胚の痕跡部分が欠けたように見える。表面には数本の筋が見られる。

・オオムギ (*Hordeum vulgare* L.) イネ科オオムギ属

炭化した胚乳が検出された。炭化しており、大きさは6 mm 程度。紡錘形で先端部は尖り基部は丸い。片側には1本の深い溝があり、その反対側の基部には胚の痕跡があまりなくくぼむ。

・コムギ (*Triticum aestivum* L.) イネ科コムギ属

炭化した胚乳が検出された。炭化しており、大きさは4 mm 程度。楕円形で全体的に丸みを帯びている。片側には1本の深い溝があり、その反対側の胚の痕跡がある。なお、保存状態が悪く、オオムギとの判別が難しいものはムギ類とした。

・キケマン属 (*Corydalis* DC.) ケシ科

種子が検出された。黒色。側面観は円形で、上面観は凸レンズ形を呈している。大きさは3 mm 程度。側面に「へそ」がある。表面は細胞が亀甲状に並列している構造が見られる。

・マメ類 (*Leguminosae* sp.)

炭化した種子が検出された。大きさは5 mm 程度。偏平な楕円形で、側面に縦長の「へそ」が存在する。

4. 考察

検出された種実はいネが最も多い。また、他に検出される種類も、ほとんどが有用植物である。検出された種類のうち、オニグルミ、モモ、サンショウ、イネ、オオムギ、コムギ、マメ類は可食植物である。この中でも特にモモ、イネ、オオムギ、コムギ、マメ類は、栽培のため感来した種類であり、これらは当時食用として利用されていたことが伺われる。イネは、小諸市の神物師屋遺跡 (氏原, 1988) や竹花遺跡 (パリノ・サーヴェイ株式会社, 1994d) などでも多量に出土している。いずれも古代に属するものであるが、形状は現在よりも小型で短粒であり、今回調査した中世のものと同様である。

佐久市およびその周辺地域での種実遺体の報告例をみると、佐久市の下壘端遺跡 (氏原・廣瀬, 1992; パリノ・サーヴェイ株式会社, 1992b)、小諸市の竹花遺跡などの報告 (パリノ・サーヴェイ株式会社, 1994a)、佐久市芝宮遺跡群 (藤原, 1999) などの成果がある。これらは奈良・平安時代から検出された炭化種実が多いが、今回遺跡から検出された種類と比較すると、ほとんどの種類が重なっており、当時広く栽培されていたことが伺われる。なお、キケマン属は人里近くに普通にみられる種類 (いわゆる雑草) であるが、炭化していないことから、遺構の廃絶後、埋積が進む過程で混入したと考えられ、後代のものである可能性が高い。

表3 種実同定結果

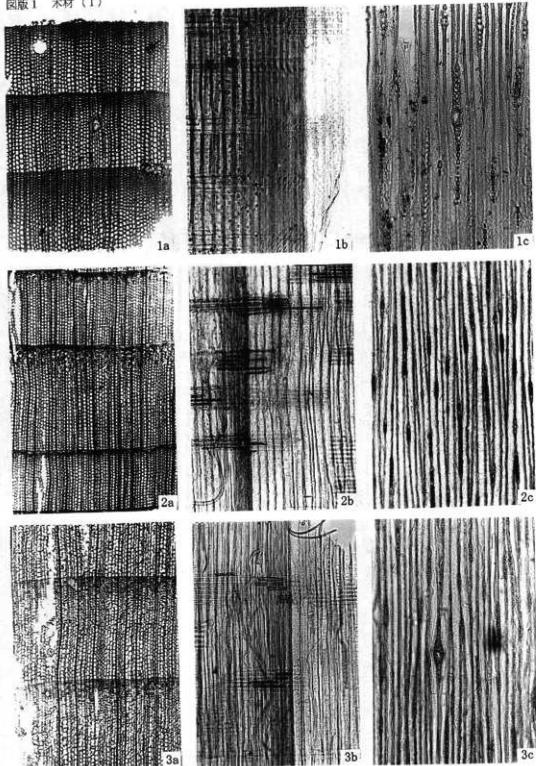
試料名	オニグルミ	モモ	サンショウ	イネ	オオムギ	コムギ	キケマン属	マメ類	不明
H1 II区	-	破	-	6	1	-	-	-	破
H4 I区床上	-	-	-	2	-	-	-	-	-
H4 IV区床上	-	-	-	7	-	-	-	-	-
H5 I区塙方	-	-	-	4	-	-	-	-	-
H5 II区塙方	-	-	-	23	1	-	-	-	1
H5 III区塙方	-	-	-	27	-	-	1	-	-
H5 IV区塙方	-	-	-	4	-	-	-	-	1
H5 P1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
H5 P8	-	-	-	2	-	-	-	-	1
H6 床上	-	-	-	1	-	1	-	-	-
H12 D1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
H12 II区床上	-	-	-	2	1	-	-	-	-
H13 IV区床上	-	破	-	1	-	-	-	-	-
H15 I区	-	-	-	1	-	1	-	-	2
M1 け51	破	-	-	2	1	-	6	-	3
M1 こ54	-	-	-	3	2	5	1	-	-
M1 さ55	-	-	-	1	1	3	-	-	-
M1 せ55	-	-	1	2	4	6	37	-	2
M1 ぞ55	-	-	-	1	2	2	6	-	1

引用文献

- 藤原直人(1999) 芝宮遺跡群・中原遺跡群出土の動物骨遺体 ―古代の食生活を考える―。『東京大学山梨文化財研究所 研究報告集2 食の復元 ―遺跡・遺物からなにを讀みとるか―』, 榎原功一 編, p. 171-184, 岩田書院。
- 藤根 久(1994) 出土柱材の樹種。『長野県更埭市 屋代遺跡群 大境遺跡Ⅳ・Ⅴ』, p. 66, 更 埭市教育委員会。
- 鎌形 勲(1979) 銀の種類とその形態構造。(社)大日本農会編『日本の穀・銀・犁』, p. 271-425, (財)農政調査委員会。
- 那須吉郎・百原 新(1998) 南軽井沢の化石群集から復元した晩水期の針葉樹林の生育立地。日本植生史学会1998年度大会講演要旨集, p. 31-32。
- 能城修一・鈴木三男(1997) 石川条里遺跡出土木製品の樹種。長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書26『中央自動車道長野埋蔵文化財発掘調査報告書15 一長野市その3ー 石川条里遺 第3分冊』, p. 68-138, (財)長野県埋蔵文化財センター。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1988a) 鉾物師屋遺跡出土炭化材同定。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第11集『鉾物師屋遺跡群 鉾物師屋 一長野県小諸市鉾物師屋遺跡発掘調査報告書ー』, p. 116-117, 小諸市教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1988b) 十二遺跡出土炭化材の樹種同定。『鉾物師屋遺跡群 十二遺跡 一長野県北佐久郡御代田町十二遺跡発掘調査報告書ー』, p. 393-399, 御代田町教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1989a) 広畑遺跡出土炭化材の樹種同定。『広畑遺跡 一長野県北佐久郡御代田町広畑遺跡発掘調査報告書ー』, p. 35-40, 御代田町教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1989b) 根岸遺跡出土炭化材の樹種同定。『長野県北佐久郡御代田町大字御代田所在 鉾物師屋遺跡群 根岸遺跡発掘調査報告書』, p. 291-293, 御代田町教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1991) 関口A・B遺跡出土材の樹種同定。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第15集『関口A・関口B・下柏原』, p. 245-254, 小諸市教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1992a) 下芝宮遺跡・下芝宮遺跡炭化材同定報告。佐久市埋蔵文化財調査報告書第9集『国道141号線関係遺跡(本文編)』, p. 355-391, 佐久市教育委員会・佐久市埋蔵文化財センター。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1992b) 下芝宮遺跡出土種子同定報告。佐久市埋蔵文化財調査報告書第9集『国道141号線関係遺跡 一本文編ー』, p. 418-421, 佐久市教育委員会・佐久市埋蔵文化財調査センター。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1993) 舞土遺跡出土炭化材の同定。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第16集『舞土』, p. 52-57, 小諸市教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1994a) 過去の植物利用について。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第17集『東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原 一長野県小諸市東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原遺跡発掘調査報告書ー』, p. 613-624, 小諸市教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1994b) 大塚原遺跡における平安時代の住居構築材。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第20集『大塚原遺跡群 大塚原(第二次) 一長野県小諸市大塚原遺跡発掘調査報告書ー』, p. 81-84, 小諸市教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1994c) H-4号住居址から出土した炭化構築材の樹種。『長野県舞土遺跡群 塚田遺跡』, p. 344-353, 長野県御代田町教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1994d) 竹花遺跡第40号住居址出土炭化米の同定。計測結果報告。『小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第17集 三子塚遺跡群東下原・大下原 宮ノ入A遺跡群竹花・舟窪 大塚原遺跡群大塚原 一長野県小諸市東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原遺跡発掘調査報告書ー』, p. 589-592, 小諸市教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1995) 第1号住居址出土の炭化材の樹種。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第24集『三子塚遺跡群 十石坂上遺跡 一長野県小諸市十石坂上遺跡発掘調査報告書ー』, p. 12-13, 小諸市教育委員会。
- 島地 謙・伊東隆夫編(1988) 日本の遺跡出土木製品総覧。296p., 雄山閣。
- 高橋 教(2000a) 炭化材の樹種。長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書51『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書24 一更埭市内その3ー 更埭条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡) 一縄文時代編ー 本文』, p. 249-253, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター。
- 高橋 教(2000b) 各時代の木製品や住居構築材等の用材。長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書54『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書28 一更埭市内その7ー 更埭条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡) 一総論編ー』, p. 228-235, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター。
- 高橋 教・辻本崇夫(1998) 古墳時代中期の木製品および住居構築材の用材。長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書29『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書25 一更埭市内その4 一更埭条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡) 一弥生・古墳時代編ー』, p. 225-228, 日本道路公団東京第二建設局・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター。
- 高橋 教・辻本崇夫(1999) 木製品・自然木・炭化材の樹種。長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書42『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書26 一更埭市内その5ー 更埭条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡) 一古代1編ー 本文』, p. 333-

- 337, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター。
- 辻 誠一郎・南木勲彦・吉川昌伸・吉川純子 (1983) 北・中部関東における立川期の植物相。日本第四紀学会講演要旨集, 13, p. 102-103.
- 辻 誠一郎・南木勲彦・住田雅和・辻 圭子・福田美和 (1999) 屋代遺跡群の古代の大型植物遺体群。長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書42「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書26 -更埴市内その5- 更埴集里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・桂河原遺跡) -古代1編- 本文」, p. 303-323, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター。
- 氏原暉男 (1988) 鉾物師屋遺跡出土の炭化米について。「小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書11集 鉾物師屋遺跡群 鉾物師屋 -長野県小諸市鉾物師屋遺跡発掘報告書」, p. 113-115, 小諸市教育委員会。
- 氏原暉男・廣瀬玉紀 (1992) 下野端遺跡出土炭化種子について。「佐久市埋蔵文化財調査報告書 第9集 国道141号線関連遺跡 -本文編-」, p. 400-417, 佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財調査センター。

図版1 木材(1)



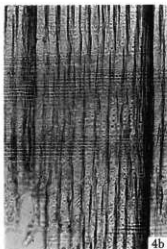
1. マツ属単維管束亜属 (試料番号A)
 2. モミ属 (試料番号D)
 3. トウヒ属 (試料番号B)
- a: 木口, b: 年輪, c: 板目

200 μ m : a
200 μ m : b, c

図版2 木材(2)



4a



4b



4c



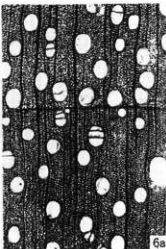
5a



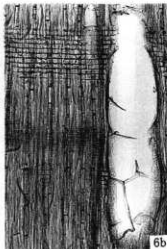
5b



5c



6a



6b

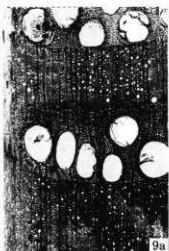
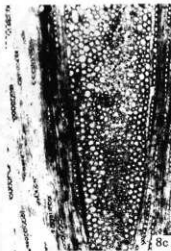


6c

4. サワラ (試料番号88)
 5. クロベ (試料番号144)
 6. オニグルミ (試料番号114)
 a: 木口, b: 柎目, c: 板目

200 μ m : a
 200 μ m : b, c

図版3 木材 (3)



7. ヤナギ属 (試料番号10)

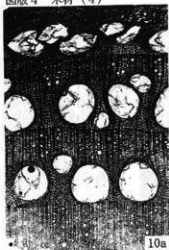
8. コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (試料番号3)

9. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (試料番号108)

a: 木口, b: 径目, c: 板目

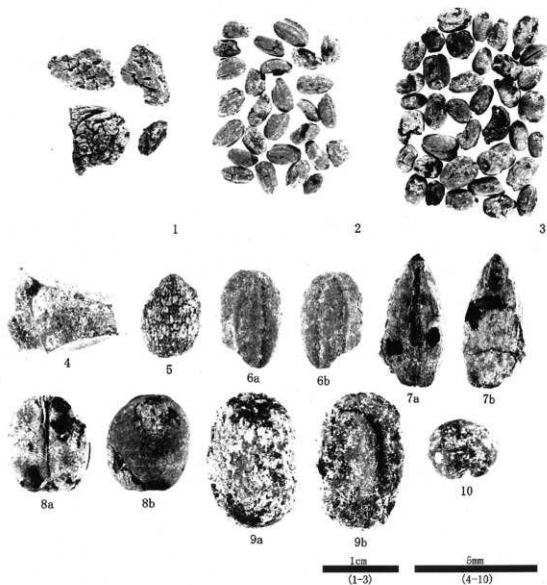
200 μm: a
200 μm: b, c

図版4 木材(4)



10. クリ (試料番号81)
11. ヤマグル (試料番号105)
12. モモ (試料番号157)
a: 木口, b: 柀目, c: 板目

200 μ m: a
200 μ m: b, c



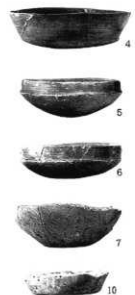
1. モモ (H1 II 区)
3. コムギ (M1 せ55)
5. サンショウ (M1 せ55)
7. オオムギ (M1 せ55)
9. マメ類 (H15 I 区)

2. イネ (H5 III 区堀方)
4. オニグルミ (M1 け51)
6. イネ (H5 III 区堀方)
8. コムギ (M1 せ55)
10. キケマン属 (M1 こ54)

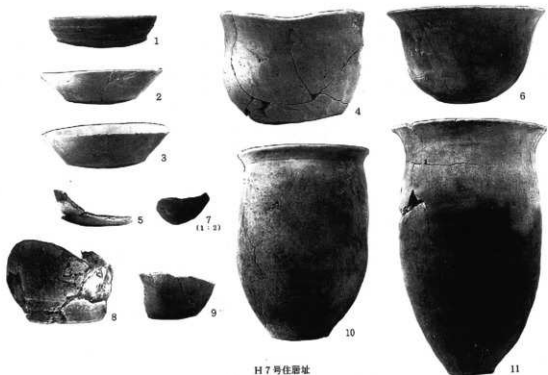


H1号住居址

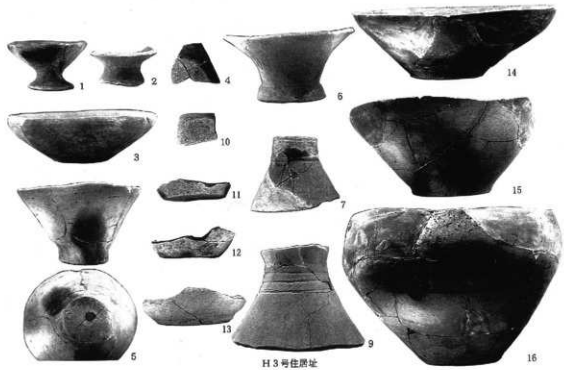
H6号住居址



H4号住居址



H 7号住居址



H 3号住居址



H 3 号住居址



H 5 号住居址



1

H 8 号住居址



M 6 号溝状遺構



1



M 4 号溝状遺構



1



2



3



4



8



9



10



16

M 1 号溝状遺構



7



5



6



11



12



13



14



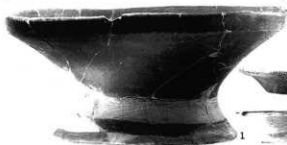
15



18



17

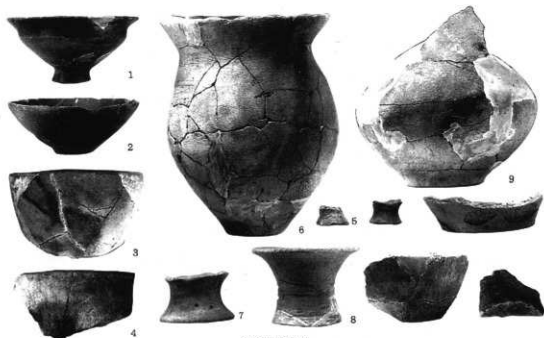


2



3

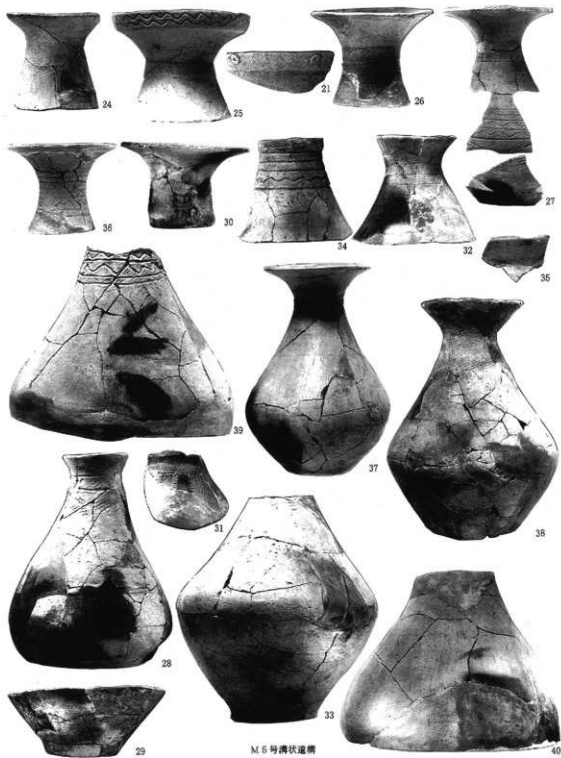
M 7 号溝状遺構



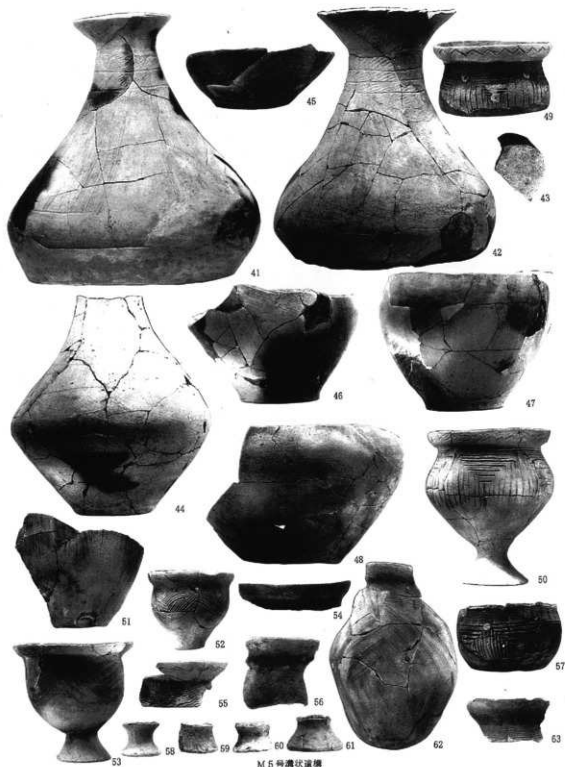
M 2号溝状遺構



M 5号溝状遺構



M 6号溝状道標



M 5 号溝状遺構



M 5 号溝状遺構

図版九・十 石製品出土遺構

(INPV)

H2 34, 35

H3 1, 2, 6, 44

H4 3, 4, 5, 37, 45

H5 7, 8, 9, 10, 11, 12, 43, 51, 53, 54, 55

H7 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 33, 47, 52, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68,

69, 70

M1 13, 14, 30, 74, 76, 92

M2 31, 49, 73, 81

M5 32, 36, 48, 50, 71, 72, 75, 77, 79, 80, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91

M6 15

M11 46

F3 16

D1 26, 27, 98

D4 41

単独ピット 39

グリット Aき 8 40, 94, 95

Aけ 3 38

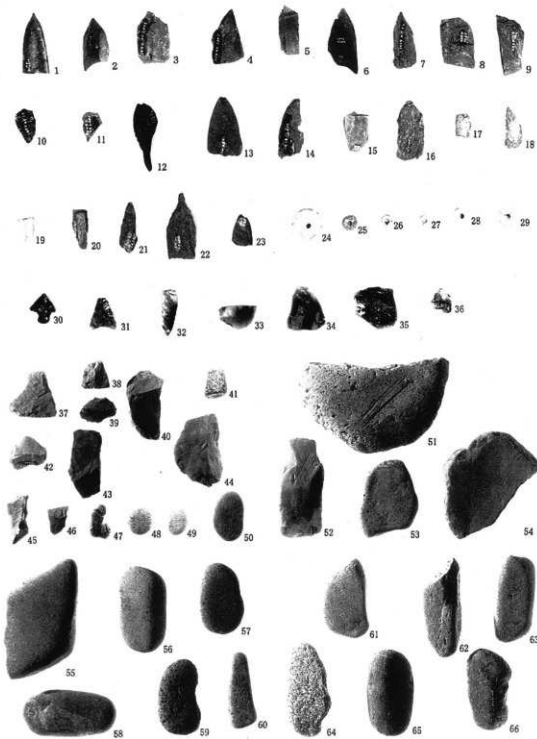
Aこ 8 42

Bえ 9 96

表様 28, 29, 97

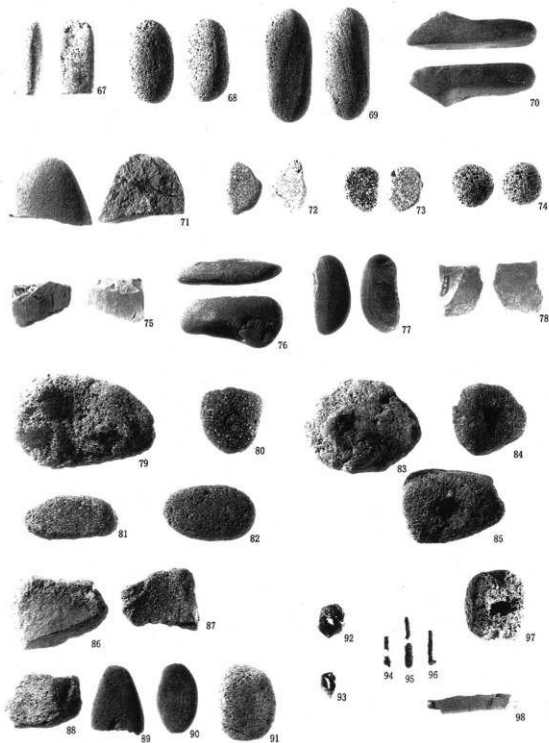
(INPVI)

M2 78, 93



图版 10

西一本柳遺跡 V・VI





1 中長塚遺跡Ⅰ
水田跡B
南から



2 中長塚遺跡Ⅰ
近景
南から



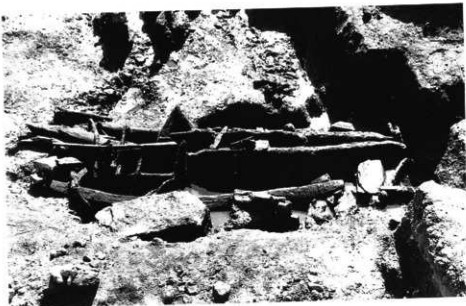
3 中長塚遺跡Ⅰ
しがらみ状遺構
東から

図版 12

1 中長塚遺跡Ⅰ
しがらみ状遺構
北から



2 中長塚遺跡Ⅰ
しがらみ状遺構
北から



3 中長塚遺跡Ⅰ
しがらみ状遺構
東から





1 中長塚遺跡Ⅰ
しがらみ状遺構
東から



2 中長塚遺跡Ⅰ
顕先出土状況



3 中長塚遺跡Ⅰ
しがらみ状遺構
掘り方 東から



1 松の木遺跡(第1次調査区 平成8年度)南方より



2 松の木遺跡(第1次調査区近景 平成8年度)北方より



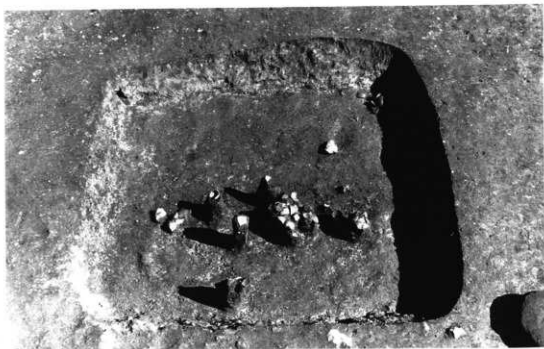
1 松の木遺跡（第Ⅰ次調査A地区近景 平成8年度）南方より



2 松の木遺跡（第Ⅱ次調査B地区近景 平成9年度）北方より

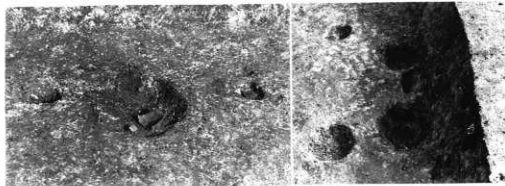
图版 16

1 Ⅱ1号住居址
遺物出土状況



2 Ⅱ1号住居址
遺物出土状況

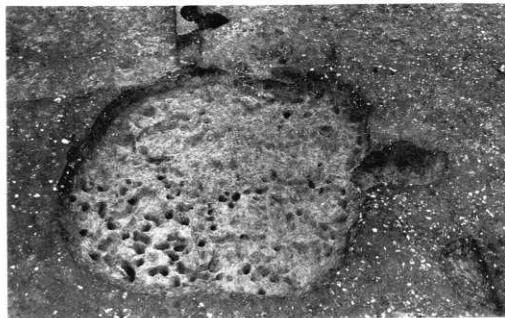




- 1 H1号住居址
炉
- 2 H1号住居址
入り口部ピット



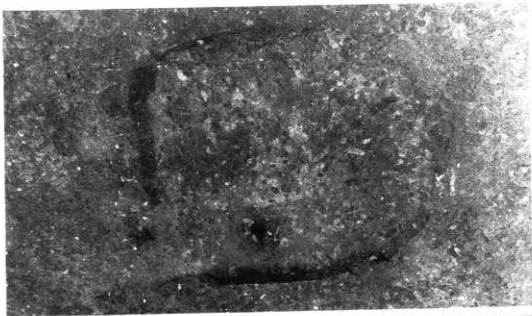
- 3 H2号住居址
遺物出土状況



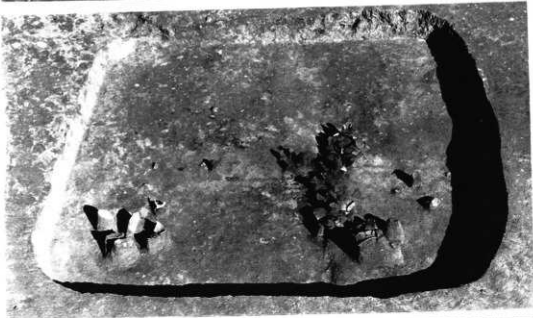
- 4 H2号住居址
掘り方

图版 18

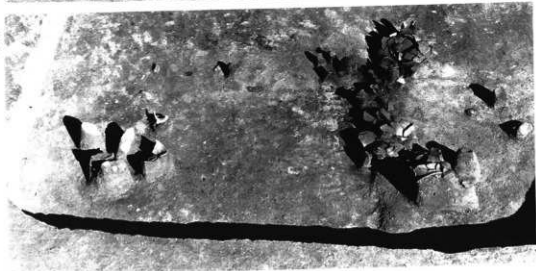
1 H3号住居址



2 H4号住居址
遺物出土状況

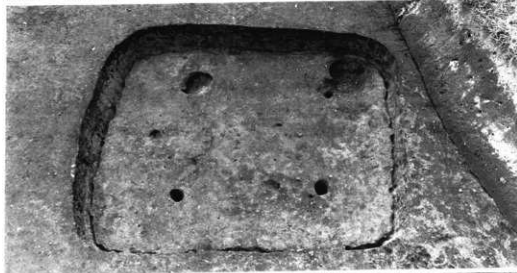


3 H4号住居址
遺物出土状況

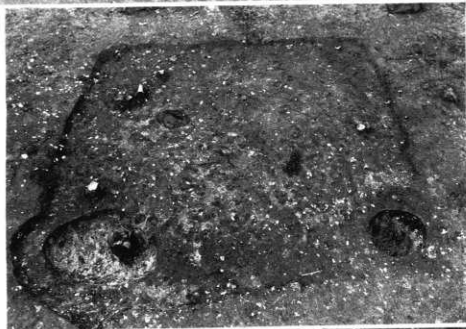




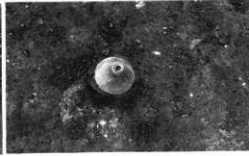
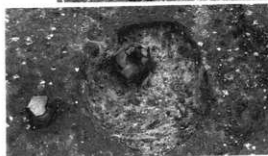
- 1 H4号住居址
遺物出土状況
- 2 H4号住居址
遺物出土状況



- 3 H4号住居址



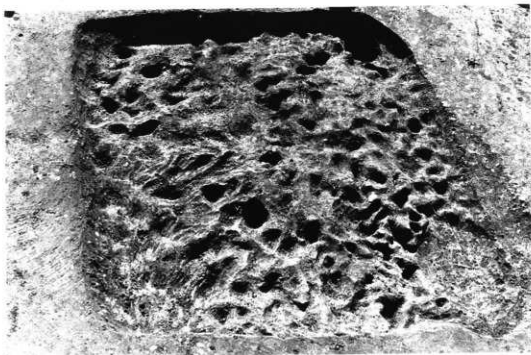
- 4 H5号住居址



- 5 H5号住居址
遺物出土状況
- 6 H5号住居址
遺物出土状況

図版 20

1 日5号住居址
掘り方



2 日6号住居址
炭化材出土状況



3 日6号住居址
炭化材出土状況





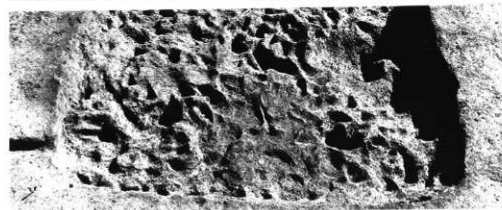
1 H6号住居址
炭化材出土状況



2 H6号住居址
遺物出土状況



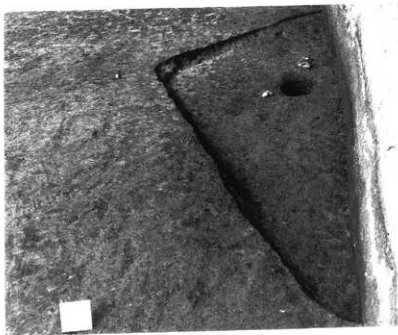
3 H6号住居址



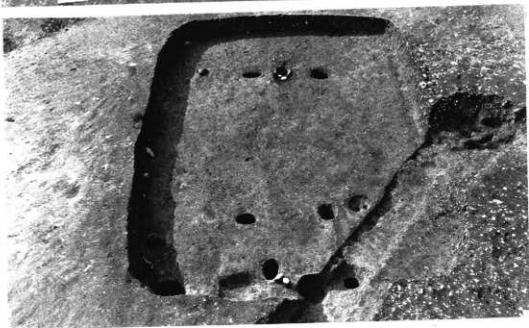
4 H6号住居址
掘り方

图版 2 2

1 H 7号住居址



2 H 8号住居址



3 H 8号住居址
遺物出土状況

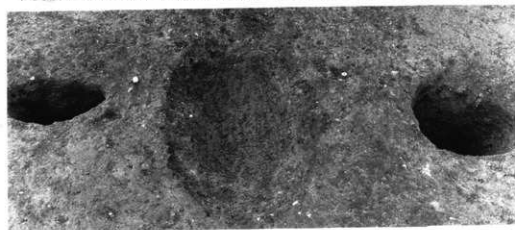


4 H 8号住居址
遺物出土状況





1 H 8号住居址
炉



2 H 8号住居址
炉



3 H 9号住居址



4 H 9号住居址
炉

図版 2 4

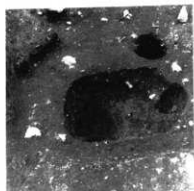
1 H9号住居址
遺物出土状況



2 H9号住居址
掘り下げ



3 H9号住居址
掘り下げ



4 H10号住居址
炭化材出土状況



5 H10号住居址

